

学生の確保の見通し等を記載した書類 別添資料

目次

資料 01	企業ヒアリング実施状況	2
資料 02	18 歳人口推移推計データ	3
資料 03	新設組織が置かれる都道府県への入学状況（別紙 1）	4
資料 04	既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績（別紙 3）	5
資料 05	創薬科学副専攻	6
資料 06	入学意向アンケート調査（学内）報告書	7
資料 07	入学意向アンケート調査（学外）報告書	36
資料 08	採用意向アンケート調査報告書	69

【資料01】企業ヒアリング実施状況

No	企業	日時	対応者	創薬科学研究者に求める人材像	インターンシップに関するコメント及びその他の聴取情報
1	製薬系企業1	2024年3月28日	2名 (人事系部署)	・専門的な知識・スキルより、創薬活動に対する意識や意欲の高さ ・プロジェクトリーダー資質 ・課題発見能力、課題解決能力 ・チームワークができる	・最近の薬学部は薬剤師養成学校になっており、研究人材の確保には苦労している（薬事や開発が人気） ・最近の若者は自己肯定感が低く、控えめな人物が多い ・修士・博士で捉え方に差異はない ・できれば関西の人材を獲得したい ・インターンより前の時点で、双方向で交流できる機会があると望ましい（会社との相性を判断） ・インターンシップの受入れは一度に2～3人が上限 ・組織対組織での包括的な連携の一環として位置づけられることが望ましい
2	製薬系企業2	2024年5月20日	2名 (採用・研修担当)	・創薬後期（探索段階から開発への繋ぎところ）が重要であり、そこに適正のある人材を投入したいとの考えがある	・修士・博士で捉え方に差異はない ・インターンシップは大人数の受け入れは難しい ・契約の形態（年毎か継続か）、課される義務の有無 ・最終的にいい人材を見出したとして、入社してくれる保証があるのかどうか
3	製薬系企業3	2024年6月10日	3名 (執行役員、人事採用担当、営業)	・狭義の創薬ではなく、食品、化粧品、医療機器など幅広く事業を展開しているため、柔軟な考え方や適合性を持った人材を望む	・関西の会社なので、その強みを生かしたい ・専門家より、つぶしの効く人材を育成するための職場ローテーションを行っている。 ・長期スパンでの交流を希望する（会社の紹介、協業可能性の模索、インターン採用者とのマッチングなど）
4	製薬系企業4	2024年6月25日	1名 (人事系部署)	・ 進取と融合ができる人材 を求める	・多様な事業に対応するための人材育成、採用に苦慮している、社内で新たな体制づくりを仕掛けている途上 ・医学部以外の学部との協業が少なく、今後、総合大学との連携も欲している。共同研究に繋がるような取り組みは歓迎する。 ・創薬科学研の研究とは内容的には合致している。
5	製薬系企業5	2024年6月27日	2名 (人事担当者等)	・ 視野の広さを持ち、周りと連携できる人材 と、他とは違うとがったところのある人材の両方を求めている	・企業より職務記述書を提示し、学生よりアブライする。マッチングを評価して採否決定。 ・インターンシップだけで内定が出る訳ではない（現場で高評価であれば、役員面接まで特急系で進むことは利点） ・インターンシップへの参加時期はいろいろ（M1、D2が望ましいが）、学部も様々
6	製薬系企業6	2024年7月5日	4名 (執行役員、人事採用担当等)	・高名な研究室で専門性を高めた人材も良いが、分からないことや不足していることを認知し、外部との繋がりの中で解決できる柔軟性を持った人材を望む	・インターンシップ制度だけでなく、OMUの創薬研究との連携の議論のなかで、ベストな解決策を探りたい（OMUも了解）。
7	製薬系企業7	2024年7月8日	4名	未聴取 (別件ミーティング時に短時間で実施したため)	・インターンシップ制度の価値は認めており、大阪公立大学の試みも素晴らしいと考える
8	製薬系企業8	2024年7月25日	2名	未聴取	・学生にとってのミスマッチを減らすことは重要 ・優秀人材確保は重要な課題である ・研究所の変革を企図しており、受け入れ余地はありそう
9	製薬系企業9	2024年11月29日	1名 (取締役)	・製薬会社の仕事の実態を理解したうえで、厳しい覚悟を持って仕事ができる人材	・薬学会などで行われている（元）製薬企業の講師派遣などのサービス等を利用し情報を収集し、製薬の何たるかをもっと理解すべき ・創薬研究以外の研究（製剤、安全性など）にも範囲を広げるべき
10	化学系企業1	2024年12月18日 (オンライン)	2名 (人事担当者等)	・主体的に動ける人材が欲しい ・指示待ちはいらない	・人事部とうまく連携する
11	製薬系企業10	2025年1月30日	1名 (執行役員)	未聴取	・インターンシップについて、賃金を上げる方向で検討中 ・ドイツ本社へのインターン派遣も実施している ・ウィーンに半官半民の研究所を設立した（日本からの研究者の送り込みも計画中）

※具体的な企業名・対応部署・対応者名等は省略

【資料02】18歳人口推移推計データ(学校基本調査からの推計)

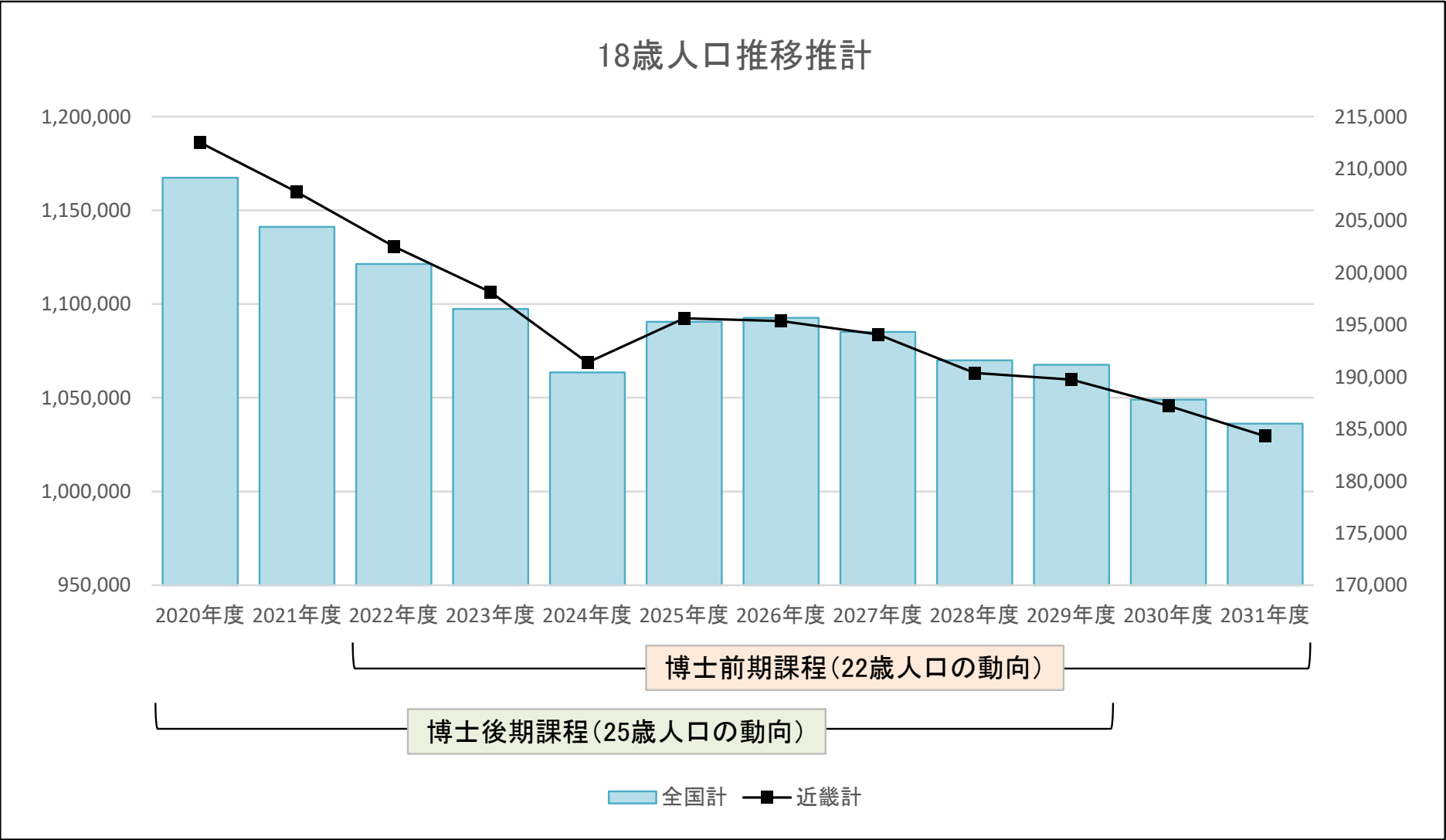
18 歳 人 口	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	2031年度
全 国 計	1,167,348	1,141,140	1,121,285	1,097,416	1,063,451	1,090,562	1,092,664	1,085,148	1,069,960	1,067,573	1,048,977	1,036,250
近 畿 計	212,514	207,744	202,520	198,130	191,386	195,625	195,360	194,081	190,390	189,738	187,214	184,327
M 進 学 年 度	2024年度 M1	2025年度 M1	2026年度 M1	2027年度 M1	2028年度 M1	2029年度 M1	2030年度 M1	2031年度 M1	2032年度 M1	2033年度 M1	2034年度 M1	2035年度 M1
D 進 学 年 度	2026年度 D1	2027年度 D1	2028年度 D1	2029年度 D1	2030年度 D1	2031年度 D1	2032年度 D1	2033年度 D1	2034年度 D1	2035年度 D1	2036年度 D1	2037年度 D1

※近畿:大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、和歌山県、滋賀県、三重県の合計

※「入学対象となる者の人口動向(開設から10年間)のデータ」の考え方について

博士前期課程 開設年度(2026年度)の22歳人口≒2022年度の18歳人口とし、2022～2031年度の18歳人口データを用いる。

博士後期課程 開設年度(2026年度)の25歳人口≒2020年度の18歳人口とし、2020～2029年度の18歳人口データを用いる。



【資料03】

新設組織が置かれる都道府県への入学状況

別紙 1

○出身高校の所在地県別の入学者数の構成比（上位 5 都道府県）※直近年度

	都道府県名	人 数	構成比
1			
2			
3			
4			
5			
	全 体		

※「学校基本調査」の「出身高校の所在地県別入学者数」から作成すること。

※大学、学部、学部の学科、短期大学、短期大学の学科を設置する場合や収容定員の増加に係る学則変更認可申請の場合に作成（専門職大学、専門職短期大学、高等専門学校を含む）。大学院は作成不要。

○新設組織が置かれる都道府県の定員充足状況

	新組織所在地 (都道府県)	充足率		
		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
1	大阪府	96.32%	97.42%	97.21%
2				

※ 2 校地で教育課程を実施する場合はそれぞれの状況を記載すること。

○新設組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況

	系統区分	充足率		
		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
1	薬学（大学院）	95.21%	96.52%	91.59%
2				

※「系統区分」は日本私立学校振興・共済事業団の「今日の私学財政」の系統区分に従うこと。

【資料04】

既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績

別紙 3

①募集を行った学科等名称及び取組の名称：大阪公立大学（学士課程） 創薬科学副専攻説明会

	R 5 年度履修	R 6 年度履修	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数 (a)	60人	62人	①取組概要 新設研究科に接続する学士課程教育プログラムとして創薬科学副専攻を開講しており、当該副専攻の説明会（学士課程1年生対象）を年1回開催している。なお、履修申請者多数の場合は、1年次の通算GPAのほか、申請理由や履修計画の内容を加味して選抜を行っている。 R5年度履修対象：2023/2/9開催 R6年度履修対象：2024/2/9開催
うち履修対象者数 (b)	60人	62人	
うち履修申請者数 (c)	59人	50人	
うち履修者数 (d)	28人	28人	
（申請率 c/b）	98. 3%	80. 6%	②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 説明会参加者の多くが創薬科学副専攻の履修を申請しており、創薬科学への関心の高さが窺える。履修申請者が50～60名いることから、創薬科学研究科への進学希望者も30～40人程度想定される。
（履修率 d/b）	46. 7%	45. 2%	

【資料05】創薬科学副専攻

【概要】（2024年度時点）

副専攻とは、学部生が、所属する主専攻に加え、学部学科等の区分を超えて主体的に興味関心のある分野を学修する制度であり、2024年度現在本学では7種類の副専攻を開設している。

創薬科学副専攻は、国内外の製薬企業で活躍できるグローバルな創薬研究者、特に「バイオ医薬品」開発に従事できる優秀な人材の養成を目的として、2020年度に大阪府立大学にて開設し、大阪市立大学と統合し大阪公立大学となった2022年度以降も引き続き開講している。

本副専攻は、疾病原因の解明、医薬品設計や合成、タンパク質・ペプチドの調製、さらには動物を用いた薬物動態や毒性病理実験までの創薬プロセスを理解し遂行できる人材の養成を目指した教育プログラムであり、そのために、従来の薬学系学問に加えて、バイオテクノロジーを基盤としたゲノム創薬科学、抗体工学や薬物送達学など、最先端の医薬品開発に必要な学問を提供する。

- 対象者：理学部・工学部・農学部・獣医学部の学部生
- 履修者数：28名（2年次に登録。履修希望者多数の場合は、1年次の通算GPAのほか、希望理由や履修計画の内容を加味して選抜）
- 修了要件：創薬科学副専攻に関する科目の必修科目10単位、選択科目12単位以上、合計22単位以上修得

【履修状況】

入学年度	学域/学部	学類/学科	課程	履修希望 申請数	履修者数
2020年度 (1期生)	工学域	物質化学系学類	応用化学課程	6	5
	工学域	物質化学系学類	化学工学課程	2	2
	工学域	物質化学系学類	マテリアル工学課程	2	1
	工学域	機械系学類	航空宇宙工学課程	1	1
	生命環境科学域	獣医学類	－	3	3
	生命環境科学域	応用生命科学類	生命機能化学課程	12	8
	生命環境科学域	理学類	物理科学課程	2	1
	生命環境科学域	理学類	分子科学課程	7	2
	生命環境科学域	理学類	生物科学課程	13	5
	合計			48	28
	GPA平均			3.11	3.38
2021年度 (2期生)	工学域	電気電子系学類	電子物理工学課程	1	0
	工学域	物質化学系学類	応用化学課程	4	4
	工学域	物質化学系学類	化学工学課程	2	1
	生命環境科学域	獣医学類	－	1	1
	生命環境科学域	応用生命科学類	生命機能化学課程	13	7
	生命環境科学域	理学類	分子科学課程	7	4
	生命環境科学域	理学類	生物科学課程	14	7
	合計			42	24
	GPA平均			3.10	3.37
2022年度 (3期生)	理学部	物理学科	－	1	0
	理学部	化学科	－	11	5
	理学部	生物学科	－	4	0
	理学部	生物化学科	－	10	4
	工学部	情報工学科	－	1	1
	工学部	応用化学科	－	2	2
	工学部	化学工学科	－	4	2
	工学部	化学バイオ工学科	－	12	8
	農学部	応用生物科学科	－	4	2
	農学部	生命機能化学科	－	9	4
	獣医学部	獣医学科	－	1	0
	合計			59	28
	GPA平均			3.08	3.38
2023年度 (4期生)	理学部	化学科	－	3	3
	理学部	生物学科	－	4	4
	理学部	地球学科	－	1	0
	理学部	生物化学科	－	15	10
	工学部	海洋システム工学科	－	1	0
	工学部	機械工学科	－	2	0
	工学部	電気電子システム工学科	－	1	1
	工学部	応用化学科	－	1	0
	工学部	化学工学科	－	2	1
	工学部	マテリアル工学科	－	2	1
	工学部	化学バイオ工学科	－	6	3
	農学部	応用生物科学科	－	6	3
	農学部	生命機能化学科	－	6	2
	合計			50	28
	GPA平均			3.03	3.35

※2020年度・2021年度入学生は大阪府立大学生

大阪公立大学大学院
創薬科学研究科 創薬科学専攻（仮称）
入学意向アンケート調査（学内）
[学内学部及び大学院在学生向け]
報告書

令和 6 年 11 月 30 日
令和 7 年 6 月 10 日追記
株式会社高等教育総合研究所

1. 調査概要

調査目的	「大阪公立大学大学院創薬科学研究科(仮称)」(令和8年度に設置予定)に対する以下の志願者・入学者の見込みを測定することを目的とする。 (1) 学内からの本研究科博士前期課程への入学ニーズ (2) 学内からの本研究科博士後期課程への入学ニーズ
調査対象	大阪公立大学(大阪市立大学、大阪府立大学を含む)の学部及び大学院の在学学生をアンケートの対象とした。 (1) 博士前期課程: 大阪公立大学の4年制学部(理学・工学・農学・情報学系)在学学生 (2) 博士後期課程: 大阪公立大学の大学院博士前期課程(理学・工学・農学・情報学系)在学学生及び6年制学部(医学部医学科、獣医学部)在学学生 ※ 6年制学部卒業者は、出願資格認定により出願が認められた者は、博士後期課程への出願と入学が可能。
調査内容	対象(1): 大学院博士前期課程への進学意向、大阪公立大学大学院創薬科学研究科博士前期課程(仮称)への受験・入学意向 対象(2): 大学院博士後期課程への進学意向、大阪公立大学大学院創薬科学研究科博士後期課程(仮称)への受験・入学意向
調査時期	令和6年9月～10月
調査方法	学内のシステムを使用しオンラインによりアンケートを実施した。
回収件数	(1) 学士課程(4年制学部、獣医・医学部医学科以外)在学学生: 546人 (2) 学士課程(6年制学部、獣医・医学部医学科)在学学生: 38人 (3) 大学院修士課程、博士前期課程在学学生: 123人 合計: 707人
調査結果	(1) 学士課程(4年制学部、獣医・医学部医学科以外)在学学生 n = 546人 創薬科学研究科博士前期課程(仮称)への受験意志(第一志望): 132人(24.2%) 創薬科学研究科博士前期課程(仮称)への入学意志: 175人(32.1%) (2) 学士課程(6年制学部、獣医・医学部医学科)在学学生 n = 38人 創薬科学研究科博士後期課程(仮称)への受験意志(第一志望): 0人(0.0%) 創薬科学研究科博士後期課程(仮称)への入学意志: 0人(0.0%) (3) 大学院修士課程、博士前期課程 在学学生 n = 123人 創薬科学研究科博士後期課程(仮称)への受験意志(第一志望): 10人(8.1%) 創薬科学研究科博士後期課程(仮称)への入学意志: 13人(10.6%)

2. 集計表

【全体設問】n = 707

グループ	問	設問	選択肢	回答数	割合
全員回答	問 1	あなたの居住地をお答えください。 n=707	大阪府	536	75.8%
			京都府	17	2.4%
			兵庫県	76	10.7%
			奈良県	51	7.2%
			和歌山県	13	1.8%
			滋賀県	10	1.4%
			三重県	0	0.0%
			その他	4	0.6%
			合計	707	100.0%
	問 2	あなたの現在の所属課程をお答えください。 n=707	学士課程（獣医・医学部医学科以外）	546	77.2%
			学士課程（獣医・医学部医学科）	38	5.4%
			修士課程・博士前期課程	123	17.4%
			合計	707	100.0%

【学士課程（獣医学部・医学部医学科以外）向け設問】n = 546

※構成比は当該グループ母集団 546 人に対する割合

グループ	問	設問	選択肢	回答数	割合
学部生（4年制、医学・獣医以外）のみ回答 n=546	問 3	あなたの現在の学年をお答えください。 n=546	学部・学域 1 年	157	28.8%
			学部・学域 2 年	135	24.7%
			学部・学域 3 年	147	26.9%
			学部・学域 4 年	107	19.6%
			合計	546	100.0%
	問 4	あなたの所属する学部学科をお答えください。 n=546	現代システム科学域	53	9.7%
			理学部	143	26.2%
			工学部	177	32.4%
			農学部	99	18.1%
			医学部リハビリテーション学科	10	1.8%
			看護学部	40	7.3%
			生活科学部	24	4.4%
			合計	546	100.0%
	問 5	あなたが専攻している学問分野または関係する学問分野をお答えください。（複数回答） n=546	薬学（創薬科学を含む）	94	17.2%
			理学	158	28.9%
			工学	176	32.2%
			農学	100	18.3%
			獣医学	0	0.0%
			医学	46	8.4%
			情報学	33	6.0%
			その他	93	17.0%
	問 6	あなたは大学院修士課程（博士前期課程）への進学を検討していますか。 n=546	在学中の学部・学域卒業後に進学したい	357	65.4%
			将来的に進学したい	97	17.8%
			進学は考えていない【アンケート終了】	92	16.8%
			合計	546	100.0%
	問 7	志望する大学院（修士課程・博士前期課程）の設置者の希望を選択してください。（複数回答）n=454	国立	337	61.7%
			公立	410	75.1%
			私立	11	2.0%
	問 8	修士課程・博士前期課程で学びたいと考えている興味	薬学（創薬科学を含む）	257	47.1%
			理学	150	27.5%
			工学	165	30.2%

		のある学問分野を次の中から選択してください。 (複数回答) n=454	農学	99	18.1%
			獣医学	11	2.0%
			医学	63	11.5%
			情報学	44	8.1%
			その他	52	9.5%
	問 9	大阪公立大学大学院創薬科学研究科 (仮称) 博士前期課程を受験したい と思いますか。 n=454	第一志望として受験する	132	24.2%
			第二志望として受験する	89	16.3%
			第三志望以降として受験する	49	9.0%
			受験しない	184	33.7%
			合計	454	83.2%
	問 10	大阪公立大学大学院創薬科学研究科 (仮称) 博士前期課程を受験して合格した場合、入学を希望しますか。 n=454	入学する	175	32.1%
			志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	93	17.0%
			入学しない【うち「受験しない」(回答権限なし) = 184】	186	34.1%
			合計	454	83.2%
	問 11	入学を希望する時期をお答えください。 n=268	2026 年度 (開設年度)	83	15.2%
			2027 年度	67	12.3%
			2028 年度以降	118	21.6%
			入学しない【回答権限なし = 186】	186	34.1%
			合計	454	83.2%

【学士課程（獣医学部・医学部医学科）向け設問】 n = 38

※構成比は当該グループ母集団 38 人に対する割合

グループ	問	設問	選択肢	回答数	割合
学部生 (6 年制、医学・獣医)のみ回答 n=38	問 12	あなたの現在の学年をお答えください。 n=38	学部 1 年	15	39.5%
			学部 2 年	8	21.1%
			学部 3 年	5	13.2%
			学部・学類 4 年	6	15.8%
			学部・学類 5 年	0	0.0%
			学部・学類 6 年	4	10.5%
			合計	38	100.0%
	問 13	あなたの所属する学部学科をお答えください。 n=38	獣医学部・学類	13	34.2%
			医学部医学科	25	65.8%
			合計	38	100.0%
	問 14	あなたが専攻している学問分野または関係する学問分野をお答えください。(複数回答) n=38	薬学 (創薬科学を含む)	2	5.3%
			理学	0	0.0%
			工学	1	2.6%
			農学	1	2.6%
			獣医学	12	31.6%
			医学	37	97.4%
			情報学	0	0.0%
			その他	0	0.0%
	問 15	あなたは大学院 (博士課程・博士後期課程) への進学を検討していますか。 n=38	在学中の学部卒業後に進学したい	1	2.6%
			将来的に進学したい	10	26.3%
			進学は考えていない【アンケート終了】	27	71.1%
			合計	38	100.0%
	問 16	志望する大学院 (博士課程・博士後期課程) の設置者の希望を選択してください	国立	9	23.7%
			公立	9	23.7%
			私立	1	2.6%

		い。(複数回答) n=11			
問 17	博士課程・博士後期課程で学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。(複数回答) n=11	薬学（創薬科学を含む）	3	7.9%	
		理学	1	2.6%	
		工学	1	2.6%	
		農学	0	0.0%	
		獣医学	1	2.6%	
		医学	10	26.3%	
		情報学	0	0.0%	
		その他	0	0.0%	
問 18	大阪公立大学大学院創薬科学研究科（仮称）博士後期課程を受験したいと思いますか。 n=11	第一志望として受験する	0	0.0%	
		第二志望として受験する	1	2.6%	
		第三志望以降として受験する	3	7.9%	
		受験しない	7	18.4%	
		合計	11	28.9%	
問 19	大阪公立大学大学院創薬科学研究科（仮称）博士後期課程を受験して合格した場合、入学を希望しますか。 n=11	入学する	0	0.0%	
		志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	4	10.5%	
		入学しない【回答権限なし=7】	7	18.4%	
		合計	11	28.9%	
問 20	入学を希望する時期をお答えください。 n=11	2026 年度（開設年度）	0	0.0%	
		2027 年度	0	0.0%	
		2028 年度以降	4	10.5%	
		入学しない【回答権限なし=7】	7	18.4%	
		合計	11	28.9%	

【大学院修士課程、博士前期課程在学生向け設問】 n=123

※構成比は当該グループ母集団 123 人に対する割合

グループ	問	設問	選択肢	回答数	割合
大学院修士課程、博士前期課程のみ回答 n=123	問 21	あなたの現在の学年をお答えください。 n=123	修士課程・博士前期課程 1 年	72	58.5%
			修士課程・博士前期課程 2 年	49	39.8%
			その他（研究生など）	2	1.6%
			合計	123	100.0%
	問 22	あなたの所属する研究科をお答えください。 n=123	現代システム科学研究科	3	2.4%
			情報学研究科	6	4.9%
			理学研究科	39	31.7%
			工学研究科	42	34.1%
			農学研究科	19	15.4%
			医学研究科	3	2.4%
			リハビリテーション学研究科	2	1.6%
			看護学研究科	1	0.8%
			生活科学研究科	8	6.5%
			合計	123	100.0%
	問 23	あなたが専攻している学問分野または関係する学問分野をお答えください。(複数回答) n=123	薬学（創薬科学を含む）	6	4.9%
			理学	44	35.8%
			工学	44	35.8%
			農学	16	13.0%
			獣医学	0	0.0%
			医学	6	4.9%
			情報学	8	6.5%
			その他	14	11.4%
	問 24		在学中の研究科修了後に進学したい	19	15.4%

		あなたは大学院（博士課程・博士後期課程）への進学を検討していますか。 n=123	将来的に進学したい	10	8.1%
			進学は考えていない【アンケート終了】	94	76.4%
			合計	123	100.0%
問 25		志望する大学院（博士課程・博士後期課程）の設置者の希望を選択してください。（複数回答） n=29	国立	24	19.5%
			公立	26	21.1%
			私立	1	0.8%
問 26		博士課程・博士後期課程で学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。（複数回答） n=29	薬学（創薬科学を含む）	16	13.0%
			理学	15	12.2%
			工学	9	7.3%
			農学	3	2.4%
			獣医学	0	0.0%
			医学	9	7.3%
			情報学	3	2.4%
			その他	4	3.3%
問 27		大阪公立大学大学院創薬科学研究科（仮称）博士後期課程を受験したいと思いますか。 n=29	第一志望として受験する	10	8.1%
			第二志望として受験する	4	3.3%
			第三志望以降として受験する	4	3.3%
			受験しない	11	8.9%
			合計	29	23.6%
問 28		大阪公立大学大学院創薬科学研究科（仮称）博士後期課程を受験して合格した場合、入学を希望しますか。n=29	入学する	13	10.6%
			志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	5	4.1%
			入学しない【回答権限なし=11】	11	8.9%
			合計	29	23.6%
問 29		「入学する」と回答された方にお尋ねします。入学を希望する時期をお答えください。n=29	2026 年度（開設年度）	17	13.8%
			2027 年度	0	0.0%
			2028 年度以降	1	0.8%
			入学しない【回答権限なし=11】	11	8.9%
			合計	29	23.6%

3. 結果の要点

要点 1) 大学院（博士前期課程・博士後期課程）への進学意向

(1) 博士前期課程への進学意向

4 年制学部在学学生に対し大学院博士前期課程への進学意向を聞いたところ、以下の結果となった。この「大学院博士前期課程への進学意向」を持つ 454 人を、創薬科学研究科博士前期課程への入学意向を問う母集団とした。

4 年制学部在学学生（4 学年 n=546）

大学院博士前期課程への進学意向（問 6）	回答数	構成比	回答数	構成比
在学中の学部・学域卒業後に進学したい	357	65. 4%	454	83. 2%
将来的に進学したい	97	17. 8%		
進学は考えていない	92	16. 8%		
合計	546	100. 0%		

(2) 博士後期課程への進学意向

6 年制学部在学学生及び大学院博士前期課程在学学生に対し、大学院博士後期課程への進学意向を聞いたところ、以下の結果となった。これらの「大学院博士後期課程への進学意向」を持つ 11 人及び 29 人（合計 40 人）を、創薬科学研究科博士後期課程への入学意向を問う母集団とした。

①6 年制学部在学学生（6 学年 n = 38）

大学院博士後期課程への進学意向（問 15） （6 年制学部在学学生）	回答数	構成比	回答数	構成比
在学中の学部・学域卒業後に進学したい	1	2. 6%	11	28. 9%
将来的に進学したい	10	26. 3%		
進学は考えていない	27	71. 1%		
合計	38	100. 0%		

②大学院修士課程・博士前期課程在学学生（2 学年 n = 123）

大学院博士後期課程への進学意向（問 24） （修士課程・博士前期課程在学学生）	回答数	構成比	回答数	構成比
在学中の研究科修了後に進学したい	19	15. 4%	29	23. 6%
将来的に進学したい	10	8. 1%		
進学は考えていない	94	76. 4%		
合計	123	100. 0%		

要点 2) 大阪公立大学大学院創薬科学研究科（仮称）への受験・入学意志

(1) 創薬科学研究科博士前期課程への受験・入学意志

大阪公立大学大学院創薬科学研究科博士前期課程（仮称）への受験・入学意志については、以下の結果を得た。4 年制学部在学学生より、132 人（24.2%）の受験意志（第一志望）、270 人（49.5%）の受験意志（第一志望～第三志望以降）、175 人（32.1%）の入学意志（「入学する」回答）を得た。

①4 年制学部在学学生（4 学年全て n=546）

創薬科学研究科 博士前期課程への受験意志（問 9）	回答数	構成比	回答数	構成比
第一志望として受験する	132	24.2%	270	49.5%
第二志望として受験する	89	16.3%		
第三志望以降として受験する	49	9.0%		
受験しない	184	33.7%		
合計（大学院博士前期課程進学希望者）	454	83.2%		

創薬科学研究科 博士前期課程への入学意志（問 10）	回答数	構成比	回答数	構成比
入学する	175	32.1%	268	49.1%
志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	93	17.0%		
入学しない	2	0.4%		
【回答権限なし】	184	34.1%		
合計（大学院博士前期課程進学希望者）	454	83.2%		

(学部 3 年生のみの集計)

なお上記の結果には学部 4 学年全ての学生の回答が含まれているため、創薬科学研究科の開設時（令和 8 年 4 月）に卒業・大学院（博士前期課程）進学予定である学部 3 年生のみで以下の集計を行った。4 年制学部の 3 年生（147 人）より、37 人（25.2%）の受験意志（第一志望）、75 人（51.0%）の受験意志（第一志望～第三志望以降）、51 人（34.7%）の入学意志（「入学する」回答）を得た。

②4 年制学部在学学生（3 年生のみ n=147）

創薬科学研究科 博士前期課程への受験意志（問 9）	回答数	構成比	回答数	構成比
第一志望として受験する	37	25.2%	75	51.0%
第二志望として受験する	28	19.0%		
第三志望以降として受験する	10	6.8%		
受験しない	48	32.7%		
合計（大学院博士前期課程進学希望者）	123	83.7%		

創薬科学研究科 博士前期課程への入学意志（問 10）	回答数	構成比	回答数	構成比
入学する	51	34.7%	74	49.1%

志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	23	15.6%		
入学しない	1	0.7%		
【回答権限なし】	48	32.7%		
合計（大学院博士前期課程進学希望者）	123	83.7%		

（２）創薬科学研究科博士後期課程への受験・入学意志

大阪公立大学大学院創薬科学研究科博士後期課程（仮称）への受験・入学意志については、以下の結果を得た。

（Ａ）６年制学部（獣医学部・医学部医学科）在学生より、０人（０.０％）の受験意志（第一志望）、４人（１０.５％）の受験意志（第二志望～第三志望以降）、０人（０.０％）の入学意志（「入学する」回答）

（Ｂ）大学院修士課程、博士前期課程在学生より、１０人（８.１％）の受験意志（第一志望）、１８人（１４.６％）の受験意志（第二志望～第三志望以降）、１３人（１０.６％）の入学意志（「入学する」回答）、を得た。

（Ａ）と（Ｂ）の合計では、１０人（６.２％）の受験意志（第一志望）、２２人（１３.７％）の受験意志（第二志望～第三志望以降）、１３人（８.１％）の入学意志（「入学する」回答）の結果を得た。

（Ａ）６年制学部在学生（６学年全て n = 38）

創薬科学研究科 博士後期課程への受験意志（問 18）	回答数	構成比	回答数	構成比
第一志望として受験する	0	0.0%	4	10.5%
第二志望として受験する	1	2.6%		
第三志望以降として受験する	3	7.9%		
受験しない	7	18.4%		
合計（大学院博士後期課程進学希望者）	11	28.9%		

創薬科学研究科 博士後期課程への入学意志（問 19）	回答数	構成比	回答数	構成比
入学する	0	0.0%	4	10.5%
志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	4	10.5%		
【回答権限なし】	7	18.4%		
合計（大学院博士後期課程進学希望者）	11	28.9%		

(B) 大学院修士課程・博士前期課程在学学生

① (M2 学年全て n = 123)

創薬科学研究科 博士後期課程への受験意志（問 27）	回答数	構成比	回答数	構成比
第一志望として受験する	10	8.1%	18	14.6%
第二志望として受験する	4	3.3%		
第三志望以降として受験する	4	3.3%		
受験しない	11	8.9%		
合計（大学院博士後期課程進学希望者）	29	23.6%		

創薬科学研究科 博士後期課程への入学意志（問 28）	回答数	構成比	回答数	構成比
入学する	13	10.6%	18	14.6%
志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	5	4.1%		
【回答権限なし】	11	8.9%		
合計（大学院博士後期課程進学希望者）	29	23.6%		

(M1 年生のみの集計)

なお上記 (B) の結果には博士前期課程 2 学年全ての学生の回答が含まれているため、創薬科学研究科の開設時 (令和 8 年 4 月) に修了・大学院 (博士後期課程) 進学予定である M1 年生のみで以下の集計を行った。6 年制学部については 5 年生の回答がなかったため、5 年生のみの集計は行わない。M1 年生 (72 人) より、9 人 (12.5%) の受験意志 (第一志望)、16 人 (22.2%) の受験意志 (第一志望～第三志望以降)、12 人 (16.7%) の入学意志 (「入学する」回答) を得た。

② (M1 年生のみ n = 72)

創薬科学研究科 博士後期課程への受験意志（問 27）	回答数	構成比	回答数	構成比
第一志望として受験する	9	12.5%	16	22.2%
第二志望として受験する	3	4.2%		
第三志望以降として受験する	4	5.6%		
受験しない	3	4.2%		
合計（大学院博士後期課程進学希望者）	19	26.4%		

創薬科学研究科 博士後期課程への入学意志（問 28）	回答数	構成比	回答数	構成比
入学する	12	16.7%	16	22.2%
志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	4	5.6%		
【回答権限なし】	3	4.2%		
合計（大学院博士後期課程進学希望者）	19	26.4%		

要点３）所属する学部別の創薬科学研究科博士前期課程（仮称）への入学意志

大阪公立大学創薬科学研究科博士前期課程の入学意志（学部３年生 $n = 147$ ）について、学部学科別の集計を行った。学部在学生（３年生のみ）で入学意志（「入学する」）を回答した 51 名のうち、「理学部、農学部」に所属するものは 29 名、「理学部、農学部以外の学部」に所属するものは 22 名であり、そのうち第一志望として受験するものは 13 名であった。

表 所属学部（問 4）と創薬科学研究科博士前期課程への入学意志（問 10）のクロス集計

	所属学部（３年生のみ）							総計
	医学部 リハビリ テーショ ン学科	看護学 部	現代シ ステム 科学域	工学部	生活科 学部	農学部	理学部	
入学する	0	2	3	15	2	8	21	51
	22					29		
志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	1	2	0	7	1	3	9	23
入学しない（「受験しない」を含む）	1	4	6	23	1	9	5	49
（大学院進学を希望しない）	1	4	3	5	0	5	6	24
総計	3	12	12	50	4	25	41	147

4. クロス集計

(1) 創薬科学研究科 博士前期課程

4 年制学部在学学生への回答について、以下のクロス集計を行った結果、33 人（6.0%）の入学意志を持つ集団を得た。この集団は創薬科学研究科（仮称）博士前期課程への強い入学意志を持つと考えられる。

〔回答者合計〕 （問 2）	〔学年〕 （問 3）	〔博士前期課程進学意向〕 （問 6）	〔設置者種別〕 （問 7）	〔興味のある学問分野〕 （問 8）	〔受験意志〕 （問 9）	〔入学意志〕 （問 10）	〔入学年度〕 （問 11）
「学士課程（獣医・医学部医学科以外）」 546 人 （100%）	「学部・学域 3 年」 147 人 （26.9%）	（大学院博士前期課程に）「進学したい」 123 人 （22.5%）	「公立」 116 人 （21.2%）	「薬学（創薬科学を含む） 理学 工学 農学 獣医学 医学 情報学」 108 人 （19.8%）	「第一志望として受験する」 34 人 （6.2%）	「入学する」 34 人 （6.2%）	「2026 年度（開設年度）」 33 人 （6.0%）

※ %は回答者グループ全体（n = 546）に対する割合

※ 表の面積は回答数と比例しない。

（２）創薬科学研究科 博士後期課程

大学院修士課程・博士前期課程の在学生への回答について、以下のクロス集計を行った。（6年制学部（獣医・医学部医学科）については、第一志望の受験・入学意志が皆無であったためクロス集計からは排除した。）クロス集計の結果、9人（7.3％）の入学意志を持つ集団を得た。この集団は創薬科学研究科（仮称）博士後期課程への強い入学意志を持つと考えられる。なお、9人の所属研究科別内訳は、理学研究科3名、農学研究科3名、工学研究科2名、医学研究科1名であった。

〔回答者合計〕 （問）	〔学年〕 （問 21）	〔博士後期 課程進学意 向〕 （問 24）	〔設置者種 別〕 （問 25）	〔興味のある学問分 野〕 （問 26）	〔受験意志〕 （問 27）	〔入学意志〕 （問 28）	〔入学年度〕 （問 29）
「修士課程・博士前期課程」 123 人 (100.0%)	「修士課程・博士前期課程 1 年」 72 人 (58.5%)	（大学院博士後期課程に）「進学したい」 19 人 (15.4%)	「公立」 17 人 (13.8%)	「薬学（創薬科学を含む） 理学 工学 農学 獣医学 医学 情報学」 17 人 (13.8%)	「第一志望として受験する」 9 人 (7.3%)	「入学する」 9 人 (7.3%)	「2026 年度（開設年度）」 9 人 (7.3%)

※ %は回答者グループ全体（n = 123）に対する割合

※ 表の面積は回答数と比例しない。

5. アンケート画面及びリーフレット（設置計画の概要）

実際のアンケート画面及びアンケート画面内で提示したリーフレットを次ページ以降に掲載する。

- ①アンケート画面
- ②リーフレット画面（設置計画の概要）

大阪公立大学大学院 創薬科学研究科（仮称） 入学意向アンケート調査

アンケート対象：大阪公立大学（大阪市立大学・大阪府立大学含む）学内学生（学部学生、大学院学生等）

大阪公立大学では、2026（令和8）年4月に大学院創薬科学研究科（仮称）の設置を構想しています。創薬科学研究科では、現代システム科学域、理学部、工学部、農学部、医学部、獣医学部、看護学部、生活科学部など大阪公立大学の学部卒業生、現代システム科学研究科、情報学研究科、理学研究科、工学研究科、農学研究科、医学研究科、リハビリテーション学研究科、看護学研究科、生活科学研究科などの大学院修了生を広く受け入れる予定です。

本学ではこのアンケート調査を通して、在学生の皆さまからご意見をお聞きし、研究科の構想内容に反映したいと考えています。本アンケートは無記名の意識調査であり、回答により進学の可否や有利不利が決まることはありません。アンケート調査へのご協力をお願いいたします。

【創薬科学研究科について】

（博士前期課程）

入学定員 40名

修業年限 2年

創薬科学に関する講義や実験・実習を通じて、医薬品の化学構造や作用メカニズム、生物学的な影響について理解を深め、研究の土台となる知識や技術を築ける人材を養成します。

（博士後期課程）

入学定員 8名

修業年限 3年

創薬科学のフロンティアに挑戦し、画期的な新知見を生み出すことのできる人材を養成します。自らの研究プロジェクトを統括し、研究グループや共同研究者を指導するリーダーシップを有する人材に加え、創薬科学研究で得られた成果を国内外で社会に還元し、製薬企業や医療、健康分野で貢献できるグローバルな人材の養成を目指します。

(キャンパス)

大阪公立大学中百舌鳥キャンパス

(競合校)

名古屋大学大学院 創薬科学研究科 基盤創薬学専攻

岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 薬科学専攻

名古屋市立大学大学院 薬学研究科 創薬生命科学専攻など

※このアンケート調査は大阪公立大学から委託された第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）が実施しています。

※本アンケートおよびリーフレットに記載されている内容については予定であり、変更される可能性があります。

規約に同意する **必須**

本アンケートへの回答は一人一回となります。

☒ 同意する

問1 あなたの居住地をお答えください。 **必須**

☒ 大阪府

☐ 京都府

☐ 兵庫県

☐ 和歌山県

☐ 奈良県

☐ 滋賀県

☐ 三重県

☐ その他

問2 あなたの現在の所属課程をお答えください。 **必須**

☒ 学士課程（獣医・医学部医学科以外）

☐ 学士課程（獣医・医学部医学科）

☐ 修士課程・博士前期課程

問3 あなたの現在の学年をお答えください。 **必須**

☒ 学部・学域1年

☐ 学部・学域2年

☐ 学部・学域3年

☐ 学部・学域4年

問4 あなたの所属する学部学科をお答えください。（大阪市立大学・大阪府立大学の学生は対応する学部を選択してください。） **必須**

☐ 現代システム科学域

☒ 理学部

☐ 工学部

☐ 農学部

☐ 医学部リハビリテーション学科

☐ 看護学部

☐ 生活科学部

問5 あなたが専攻している学問分野または関係する学問分野をお答えください。（複数回答） **必須**

☒ 薬学（創薬科学を含む）

☐ 理学

☐ 工学

☐ 農学

☐ 獣医学

☐ 医学

☐ 情報学

☐ その他

問6 あなたは大学院（修士課程・博士前期課程）への進学を検討していますか。 **必須**

☒ 在学中の学部・学域卒業後に進学したい

☐ 将来的に進学したい

☐ 進学は考えていない

問7 志望する大学院（修士課程・博士前期課程）の設置者の希望を選択してください。（複数回答） **必須**

☐ 国立

☒ 公立

☐ 私立

問8 修士課程・博士前期課程で学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。（複数回答） **必須**

☒ 薬学（創薬科学を含む）

☐ 理学

☐ 工学

☐ 農学

☐ 獣医学

☐ 医学

☐ 情報学

☐ その他

大阪公立大学大学院創薬科学研究科（仮称）の概要をご覧になった上で、以降の質問にお答えください。

[＜PDF版はここをクリック＞](#)

問9 大阪公立大学大学院創薬科学研究科（仮称）博士前期課程を受験したいと思いますか。 **必須**

☒ 第一志望として受験する

☐ 第二志望として受験する

☐ 第三志望以降として受験する

☐ 受験しない

問10 大阪公立大学大学院創薬科学研究科（仮称）博士前期課程を受験して合格した場合、入学を希望しますか。 **必須**

☒ 入学する

☐ 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する

☐ 入学しない

問11 入学を希望する時期をお答えください **必須**

☒ 2026年度（開設年度）

☐ 2027年度

☐ 2028年度以降

☐ 入学しない

送信

(6年制学部（獣医学部、医学部医学科）在籍学生向け アンケート画面)

大阪公立大学大学院 創薬科学研究科（仮称） 入学意向アンケート調査

アンケート対象：大阪公立大学（大阪市立大学・大阪府立大学含む）学内学生（学部学生、大学院学生等）

大阪公立大学では、2026（令和8）年4月に大学院創薬科学研究科（仮称）の設置を構想しています。創薬科学研究科では、現代システム科学域、理学部、工学部、農学部、医学部、獣医学部、看護学部、生活科学部など大阪公立大学の学部卒業生、現代システム科学研究科、情報学研究科、理学研究科、工学研究科、農学研究科、医学研究科、リハビリテーション学研究科、看護学研究科、生活科学研究科などの大学院修了生を広く受け入れる予定です。

本学ではこのアンケート調査を通して、在学生の皆さまからご意見をお聞きし、研究科の構想内容に反映したいと考えています。本アンケートは無記名の意識調査であり、回答により進学の可否や有利不利が決まることはありません。アンケート調査へのご協力をお願いいたします。

【創薬科学研究科について】

（博士前期課程）

入学定員 40名

修業年限 2年

創薬科学に関する講義や実験・実習を通じて、医薬品の化学構造や作用メカニズム、生物学的な影響について理解を深め、研究の土台となる知識や技術を築ける人材を養成します。

（博士後期課程）

入学定員 8名

修業年限 3年

創薬科学のフロンティアに挑戦し、画期的な新知見を生み出すことのできる人材を養成します。自らの研究プロジェクトを統括し、研究グループや共同研究者を指導するリーダーシップを有する人材に加え、創薬科学研究で得られた成果を国内外で社会に還元し、製薬企業や医療、健康分野で貢献できるグローバルな人材の養成を目指します。

(キャンパス)

大阪公立大学中百舌鳥キャンパス

(競合校)

名古屋大学大学院 創薬科学研究科 基盤創薬学専攻

岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 薬科学専攻

名古屋市立大学大学院 薬学研究科 創薬生命科学専攻など

※このアンケート調査は大阪公立大学から委託された第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）が実施しています。

※本アンケートおよびリーフレットに記載されている内容については予定であり、変更される可能性があります。

規約に同意する **必須**

本アンケートへの回答は一人一回となります。

☒ 同意する

問1 あなたの居住地をお答えください。 **必須**

☒ 大阪府

☐ 京都府

☐ 兵庫県

☐ 和歌山県

☐ 奈良県

☐ 滋賀県

☐ 三重県

☐ その他

問2 あなたの現在の所属課程をお答えください。 **必須**

☐ 学士課程（獣医・医学部医学科以外）

☒ 学士課程（獣医・医学部医学科）

☐ 修士課程・博士前期課程

問12 あなたの現在の学年をお答えください。 **必須**

☐ 学部1年

☐ 学部2年

☐ 学部3年

☒ 学部・学類4年

☐ 学部・学類5年

☐ 学部・学類6年

問13 あなたの所属する学部学科をお答えください。 **必須**

☒ 獣医学部・学類

☐ 医学部医学科

問14 あなたが専攻している学問分野または関係する学問分野をお答えください。（複数回答） **必須**

☒ 薬学（創薬科学を含む）

☐ 理学

☐ 工学

☐ 農学

☐ 獣医学

☐ 医学

☐ 情報学

☐ その他

問15 あなたは大学院（博士課程・博士後期課程）への進学を検討していますか。 **必須**

☐ 在学中の学部卒業後に進学したい

☒ 将来的に進学したい

☐ 進学は考えていない

問16 志望する大学院（博士課程・博士後期課程）の設置者の希望を選択してください。（複数回答） **必須**

☐ 国立	☒ 公立
☐ 私立	

問17 博士課程・博士後期課程で学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。（複数回答） **必須**

☒ 薬学（創薬科学を含む）	☐ 理学
☐ 工学	☐ 農学
☐ 獣医学	☐ 医学
☐ 情報学	☐ その他

大阪公立大学大学院創薬科学研究科（仮称）の概要をご覧になった上で、以降の質問にお答えください。

[＜PDF版はここをクリック＞](#)

問18 大阪公立大学大学院創薬科学研究科（仮称）博士後期課程を受験したいと思いますか。 **必須**

☐ 第一志望として受験する	☐ 第二志望として受験する
☐ 第三志望以降として受験する	☐ 受験しない

問19 大阪公立大学大学院創薬科学研究科（仮称）博士後期課程を受験して合格した場合、入学を希望しますか。 **必須**

☐ 入学する
☐ 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する
☐ 入学しない

問20 入学を希望する時期をお答えください。 **必須**

☐ 2026年度（開設年度）	☐ 2027年度
☐ 2028年度以降	☐ 入学しない

大阪公立大学大学院 創薬科学研究科（仮称） 入学意向アンケート調査

アンケート対象：大阪公立大学（大阪市立大学・大阪府立大学含む）学内学生（学部学生、大学院学生等）

大阪公立大学では、2026（令和8）年4月に大学院創薬科学研究科（仮称）の設置を構想しています。創薬科学研究科では、現代システム科学域、理学部、工学部、農学部、医学部、獣医学部、看護学部、生活科学部など大阪公立大学の学部卒業生、現代システム科学研究科、情報学研究科、理学研究科、工学研究科、農学研究科、医学研究科、リハビリテーション学研究科、看護学研究科、生活科学研究科などの大学院修了生を広く受け入れる予定です。

本学ではこのアンケート調査を通して、在学生の皆さまからご意見をお聞きし、研究科の構想内容に反映したいと考えています。本アンケートは無記名の意識調査であり、回答により進学の可否や有利不利が決まることはありません。アンケート調査へのご協力をお願いいたします。

【創薬科学研究科について】

（博士前期課程）

入学定員 40名

修業年限 2年

創薬科学に関する講義や実験・実習を通じて、医薬品の化学構造や作用メカニズム、生物学的な影響について理解を深め、研究の土台となる知識や技術を築ける人材を養成します。

（博士後期課程）

入学定員 8名

修業年限 3年

創薬科学のフロンティアに挑戦し、画期的な新知見を生み出すことのできる人材を養成します。自らの研究プロジェクトを統括し、研究グループや共同研究者を指導するリーダーシップを有する人材に加え、創薬科学研究で得られた成果を国内外で社会に還元し、製薬企業や医療、健康分野で貢献できるグローバルな人材の養成を目指します。

(キャンパス)

大阪公立大学中百舌鳥キャンパス

(競合校)

名古屋大学大学院 創薬科学研究科 基盤創薬学専攻

岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 薬科学専攻

名古屋市立大学大学院 薬学研究科 創薬生命科学専攻など

※このアンケート調査は大阪公立大学から委託された第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）が実施しています。

※本アンケートおよびリーフレットに記載されている内容については予定であり、変更される可能性があります。

規約に同意する **必須**

本アンケートへの回答は一人一回となります。

☒ 同意する

問1 あなたの居住地をお答えください。 **必須**

☒ 大阪府

☐ 京都府

☐ 兵庫県

☐ 和歌山県

☐ 奈良県

☐ 滋賀県

☐ 三重県

☐ その他

問2 あなたの現在の所属課程をお答えください。 **必須**

☐ 学士課程（獣医・医学部医学科以外）

☐ 学士課程（獣医・医学部医学科）

☒ 修士課程・博士前期課程

問21 あなたの現在の学年をお答えください。 **必須**

☒ 修士課程・博士前期課程1年

☐ 修士課程・博士前期課程2年

☐ その他（研究生など）

問22 あなたの所属する研究科をお答えください。 **必須**

☐ 現代システム科学研究科

☒ 情報学研究科

☐ 理学研究科

☐ 工学研究科

☐ 農学研究科

☐ 医学研究科

☐ リハビリテーション学研究科

☐ 看護学研究科

☐ 生活科学研究科

問23 あなたが専攻している学問分野または関係する学問分野をお答えください。（複数回答） **必須**

☒ 薬学（創薬科学を含む）

☐ 理学

☐ 工学

☐ 農学

☐ 獣医学

☐ 医学

☐ 情報学

☐ その他

問24 あなたは大学院（博士課程・博士後期課程）への進学を検討していますか。 **必須**

☒ 在学中の研究科修了後に進学したい

☐ 将来的に進学したい

☐ 進学は考えていない

問25 志望する大学院（博士課程・博士後期課程）の設置者の希望を選択してください。（複数回答） **必須**

☐ 国立

☐ 公立

☐ 私立

問26 博士課程・博士後期課程で学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。（複数回答） **必須**

☐ 薬学（創薬科学を含む）

☐ 理学

☐ 工学

☐ 農学

☐ 獣医学

☐ 医学

☐ 情報学

☐ その他

大阪公立大学大学院創薬科学研究科（仮称）の概要をご覧になった上で、以降の質問にお答えください。

[＜PDF版はクリック＞](#)

問27 大阪公立大学大学院創薬科学研究科（仮称）博士後期課程を受験したいと思いますか。 **必須**

☐ 第一志望として受験する

☐ 第二志望として受験する

☐ 第三志望以降として受験する

☐ 受験しない

問28 大阪公立大学大学院創薬科学研究科（仮称）博士後期課程を受験して合格した場合、入学を希望しますか。 **必須**

☐ 入学する

☐ 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する

☐ 入学しない

問29 「入学する」と回答された方にお尋ねします。入学を希望する時期をお答えください。 **必須**

☐ 2026年度（開設年度）

☐ 2027年度

☐ 2028年度以降

☐ 入学しない

送信

大阪公立大学大学院 創薬科学研究科 創薬科学専攻※

開設時期	2026年4月		
学位	修士(創薬科学)	博士(創薬科学)	
入学定員	博士前期課程 40名	博士後期課程 8名	
修業年限	2年	3年	
入試種別	一般選抜・外国人留学生特別選抜	一般選抜・外国人留学生特別選抜・社会人特別選抜	
学生納付金	[入学金] 282,000円(大阪府民及びその子)、382,000円(その他の者) [授業料] 535,800円(年額) [初年度納付金合計] 817,800円(大阪府民及びその子)、917,800円(その他の者)		
設置場所	〒599-8531 大阪府堺市中区学園町1番1号(大阪公立大学 中百舌鳥キャンパス)		

ACCESS



- 電車をご利用の方
- 南海高野線「白鷺駅」下車、南西へ約500m、徒歩約7分。
 - 南海高野線「中百舌鳥駅」下車、南東へ約1,000m、徒歩約13分。
 - Osaka Metro御堂筋線「なかもず駅(5号出口)」から南東へ約1,000m、徒歩約13分。

- バスをご利用の方
- 南海高野線「中百舌鳥駅」・Osaka Metro御堂筋線「なかもず駅」から南海バス(北野田駅前行131、131-C、132系統)で約5分、「府立大学前」下車。
 - 南海本線「堺駅」から南海バス(北野田駅前行131、132、132-C系統)で約24分、JR阪和線・南海高野線「三国ヶ丘駅」から南海バス(北野田駅前行131、132、132-C系統)で約14分、「府立大学前」下車。



創薬科学研究科※Webサイト
https://omu.ac.jp/dd-special/



大阪公立大学Webサイト
https://www.omu.ac.jp/



[お問い合わせ先] 大阪公立大学創薬科学研究科※設置準備担当(教育推進課 教育企画担当) Mail : gr-kyik-kikaku@omu.ac.jp

※研究科・専攻名称は仮称。設置計画は構想中であり、内容に変更が生じる場合があります。

創薬に、
知の化学反応を。

大阪公立大学 大学院

創薬科学研究科※

2026年4月 開設予定

※研究科・専攻名称は仮称。
設置計画は構想中であり、内容に変更が生じる場合があります。

創薬科学研究科※の特長

1 異分野融合に基づく教育・研究

異なる専門分野の教員で構成される研究科の特徴を生かし、「異分野体験型創薬ラボ演習プログラム」や多様な特論講義等を通して、画期的な創薬パラダイムの創成を可能にする教育・研究を実践する。

2 産学共創教育

製薬企業と連携して開講される「創薬科学キャリアデザイン」や「ジョブ型創薬研究インターンシップ」の履修を通して、製薬企業や関連業界において即戦力となる人材を育成する。

3 グローバル人材育成教育

「創薬科学グローバルプレゼンテーション」、「国際性涵養プログラム」、および「グローバル合宿・在外研究体験」の履修を通して、実践的な英語力を身に付け、グローバルに活躍できる人材を育成する。

設置の理念

コロナ禍により顕在化したパンデミックの脅威、高齢化社会、経済格差、グローバル化などに起因するヘルスケア分野の課題の複雑化、さらに地球温暖化に伴う昆虫媒介性熱帯病の拡大への懸念など、創薬を取り巻く社会環境は大きく変化しています。こうした状況において、創薬科学研究ではモダリティ（治療を目的とした介入手段）の開発を含む新たな発想やアプローチによる課題解決が求められています。一方、薬学を基盤とする従来の知識・技術体系による創薬には限界があるため、多様な学術領域を融合した「総合知」による解決策が模索され、それに伴い医薬品産業構造などのパラダイムシフトが進行しています。

大阪公立大学は理学、工学、農学、獣医学、医学、情報学、看護学、生活科学、リハビリテーション学などの自然科学系、文学、経済学、経営学などの人文・社会科学系の学術領域を有する総合大学であり、異分野融合研究によるユニークな発想やアプローチ、文理融合による総合知の探究が可能です。これら多様な学術領域を統合した「総合知による創薬」を実現するための基盤教育として、2020年4月より学士課程に創薬科学副専攻を設置し、理学、工学、農学、獣医学部に所属する優秀な学生に対して、ハイレベルな実習や座学を通じて創薬の基礎を教授しています。

創薬科学研究科※では、創薬科学の基礎となる学問分野を学んだ学生や社会人がさらに高度な専門的知識や技術を習得し、独創的かつ論理的な思考能力、高度な課題解決能力、自立的な研究推進能力を身に付け、グローバルな創薬科学研究者として活躍できることを目指します。さらに、大阪公立大学の強みを生かしたモダリティ基盤技術およびバイオ医薬品の開発研究を推進することで、創薬科学研究科※がアカデミア（疾患の発症機序などの基礎研究）と企業（医薬品開発）を繋ぐ「創薬ハブ」としての役割を果たすことを目指します。

養成する人材像

創薬科学研究科※は、次の特性や能力を持ち、創薬科学分野、及び、ヘルスケアサイエンスを含めた関連分野の発展に寄与する次世代のリーダーとなる研究者や専門家を養成する。

- ① 創薬科学分野において高度な専門知識と技術を持ち、優れた問題解決能力、高い創造性とイノベーション能力、高い倫理観と社会的責任感を兼ね備える
- ② 国際的な研究動向や標準を理解し、グローバルな視点で創薬科学研究を進めることができる
- ③ 科学技術の進歩に対応し、生命現象の基本原則を探究するという基礎科学的視点を備え、継続的に学習し続ける姿勢を持ち、自己評価とフィードバックを基に自己成長を追求する意欲をもつ

【博士前期課程】

- ① 医薬品の化学構造や作用メカニズム、生物学的な影響について理解を深め、研究の土台となる基礎科学的思考力、知識や技術を築くことができる
- ② 自らの研究テーマを設定し、それに基づいて研究計画を立案し、実験の実施やデータの収集・解析を通じて科学的な問題解決能力
- ③ 自らの研究成果を適切に社会に伝える高いコミュニケーション能力

【博士後期課程】

- ① 創薬科学とその関連分野のフロンティアに挑戦し、画期的な新知見を生み出すことができる
- ② 自らの研究プロジェクトを統括し、研究グループや共同研究者を指導するリーダーシップ
- ③ 創薬科学研究や関連分野で得られた成果を国内外で社会に還元し、製薬企業や医療、健康分野で貢献できるグローバルな人材

アドミッション・ポリシー

創薬科学研究科※では、以下の能力を有する人物を求める。

【博士前期課程】

- ① **知識融合と創造性**:創薬科学は、物理学、化学、生物学、医学、工学などの複数の分野の知識が統合される領域である。これらの分野で優れた学業成績を持ち、特に異分野間での知識融合やアイデア発展能力、論理的思考力、融合研究に関するポテンシャルや創造性を有する人物。
- ② **基礎学力**:本研究科の研究・教育に必要な基礎学力を備えている人物。
- ③ **コミュニケーション能力**:異なるバックグラウンドを持つ研究者同士が協力するために必要な、高いコミュニケーション能力や協調性を有する人物。
- ④ **英語能力**:英文学術論文の読解力、及び英語による表現力を有する人物。

【博士後期課程】

- ① **知識融合とアイデア発展能力**:複数の分野で優れた学業成績を持ち、特に異分野間での知識融合やアイデア発展能力、論理的思考力、およびインターディシプリナリーなアプローチができる高いポテンシャルを持つ人物。
- ② **基礎学力とグローバルな視野**:大学院博士前期課程修了程度以上の基礎学力を有し、グローバルな環境下で学際研究に積極的に取り組む意欲があり、高度な英文読解力と英語表現力を持つ人物。
- ③ **リーダーシップとコミュニケーション能力**:異なるバックグラウンドを持つ研究者を牽引するリーダーシップを発揮しながら研究を進め、その成果を適切に伝える高いコミュニケーション能力を有する人物。
- ④ **研究能力と知的好奇心**:知的好奇心を持ち、創薬科学分野あるいは関連する分野で博士前期課程修了以上の研究能力を持ち、自ら研究を立案・計画・遂行できる優れた能力を備えた人物。

上記のほか、創薬科学研究や実務に関連する経験（研究実績、インターンシップ、業界での経験など）を持つ人物の出願も期待する。

カリキュラムの概要

	大学院共通教育科目	専門科目・研究指導科目			
博士前期課程	● 研究公正 など	● 生体高分子創薬科学特論 ● 分子生物学特論 ● 創薬生命化学特論 ● 創薬抗体工学特論 ● 標識創薬化学特論 ● 病態創薬科学特論 ● 機能生化学特論 ● 創薬計算科学特論 ● 創薬構造生物学特論 ● 細胞生物化学特論 ● ゲノム安全科学特論 ● 生体高分子化学特論 ● 植物生理化学特論 ● 創薬材料工学特論 ● 創薬免疫工学特論 ● 創薬科学特別講義 など			
		● 異分野体験型創薬ラボ演習プログラム ● 創薬科学グローバルプレゼンテーション ● 国際性涵養(かんよう)プログラム ● 創薬科学キャリアデザイン ● 研究企画ゼミナール			
博士後期課程	● 研究公正 ● イノベーション 創出型研究者養成 など	● 創薬科学特別研究 ● 創薬科学特別演習			
		● ジョブ型創薬研究インターンシップ ● グローバル合宿・在外研究体験 ● 創薬科学キャリアデザイン ● 研究企画ゼミナール			

想定される 修了後の進路

【博士前期課程】

- 博士後期課程(博士課程)への進学
- 製薬企業、バイオテクノロジー企業等の研究職
- 保健行政や関連する基礎科学を所管する中央省庁や外郭団体、国立研究開発法人等の政府系研究機関・公的研究機関の職員

【博士後期課程】

- 大学や研究機関の教員・研究者
- 製薬企業、バイオテクノロジー企業等の研究開発職
- 保健行政や関連する基礎科学を所管する中央省庁や外郭団体、国立研究開発法人等の政府系研究機関・公的研究機関の研究職
- 製薬ベンチャー企業の研究職・起業家

大阪公立大学大学院
創薬科学研究科 創薬科学専攻（仮称）
入学意向アンケート調査（学外）
〔学外インターネット調査〕
報告書

令和 6 年 11 月 30 日
株式会社高等教育総合研究所

1. 調査概要

調査目的	「大阪公立大学大学院創薬科学研究科(仮称)」(令和8年度に設置予定)に対する以下の志願者・入学者の見込みを測定することを目的とする。 (1) 学外からの本研究科博士前期課程への入学ニーズ (2) 学外からの本研究科博士後期課程への入学ニーズ
調査対象	インターネット調査会社の登録モニターのうち、以下の属性の集団を対象とした。 居住地域：近畿地区在住者 (1) 薬学(創薬科学を含む)・理学・工学・農学・情報学系の4年制大学学部卒業者または在学者 (2) 薬学(創薬科学を含む)・理学・工学・農学・情報学系の大学院修士課程修了者または在学者、獣医学・医学系の6年制学部卒業者または在学者
調査内容	対象(1)：大学院博士前期課程への進学意向、大阪公立大学大学院創薬科学研究科博士前期課程(仮称)への受験・入学意向 対象(2)：大学院博士後期課程への進学意向、大阪公立大学大学院創薬科学研究科博士後期課程(仮称)への受験・入学意向
調査時期	令和6年10月
調査方法	インターネット調査会社の登録モニターに対しスクリーニング調査で上記の調査対象を抽出し、メールで調査依頼をし、パソコンまたはスマートフォンで回答を得た。
回収件数	(1) 4年制大学学部卒業者または在学者：419人 (2) 大学院修士課程修了者または在学者、6年制学部卒業者または在学者：303人 (3) その他：博士後期課程修了者等：29人 合計：751人
調査結果	(1) 4年制大学学部卒業者または在学者 n = 419人 創薬科学研究科博士前期課程(仮称)への受験意志(第一志望)：29人(6.9%) 創薬科学研究科博士前期課程(仮称)への入学意志：26人(6.2%) (2) 大学院修士課程修了者または在学者・6年制学部卒業者または在学者 n = 303人 創薬科学研究科博士後期課程(仮称)への受験意志(第一志望)：18人(5.9%) 創薬科学研究科博士後期課程(仮称)への入学意志：21人(6.9%)
調査実施	株式会社クロス・マーケティング 株式会社高等教育総合研究所

2. 集計表

①スクリーニング調査（本調査移行用の抽出回答のみ表示）

※4,495 人のスクリーニング対象母集団から以下の本調査対象回答者（751 人）を抽出した。

設問		選択肢	回答数	%
スクリーニング Q1【保有学位】 あなたの最終学歴 をお答えくださ い。 (択一)	1	高校卒業または在学中	0	0%
	2	専門学校卒業または在学中	0	0%
	3	短大卒業または在学中	0	0%
	4	大学（4 年制学部）卒業または在学中	431	57.4%
	5	大学（6 年制学部[医学・獣医学・薬学等]）卒業または在学中	130	17.3%
	6	大学院修士課程・博士前期課程修了または在学中	190	25.3%
	7	大学院博士課程・博士後期課程修了または在学中	0	0%
	8	その他	0	0%
		合計	751	100.0%
スクリーニング Q2【学問分野】 大学または大学院 であなたが専攻し た（在学中の方は 専攻している）学 問分野をお答えく ださい。 (複数回答)	1	薬学（創薬科学を含む）	184	24.5%
	2	理学	120	16.0%
	3	工学	205	27.3%
	4	農学	63	8.4%
	5	獣医学	11	1.5%
	6	医学	155	20.6%
	7	情報学	48	6.4%
	8	その他	5	0.7%
		合計	751	100.0%

②本調査

（共通）【全体設問】

※スクリーニング調査で抽出した 751 人に対し本調査を行い、4 年制大学卒業または在学中の回答者（419 人）は博士前期課程についての設問（1）、6 年制学部卒業または在学者、大学院修士課程修了または在学者（303 人）は博士後期課程についての設問（2）に移行した。

設問		選択肢	回答数	%
Q1 あなたの居住地 をお答えください (択一)	1	大阪府	319	42.5%
	2	京都府	100	13.3%
	3	兵庫県	201	26.8%
	4	奈良県	52	6.9%
	5	和歌山県	22	2.9%
	6	滋賀県	44	5.9%
	7	三重県	0	0%
	8	その他	13	1.7%
		合計	751	100.0%
Q2 あなたの現在の 職業等をお答えく ださい (択一)	1	学生（大学学部[4 年制]）	76	10.1%
	2	学生（大学学部[6 年制]）	28	3.7%
	3	学生（大学院修士課程・博士前期課程）	37	4.9%
	4	学生（大学院博士課程・博士後期課程）	6	0.8%
	5	薬剤師	92	12.3%
	6	研究職	33	4.4%
	7	会社員	350	46.6%
	8	教員	49	6.5%
	9	その他	80	10.7%
		合計	751	100%
Q3 あなたの最終学 位をお答えくださ い（在学中で取得 予定を含む） (択一)	1	4 年制大学学部 在学中【→Q5 に移動】	63	8.4%
	2	学士（4 年制大学学部 卒業）【→Q5 に移動】	356	47.4%
	3	6 年制大学学部（医学・獣医学・薬学等）在学中 【→Q11 に移動】	48	6.4%
	4	学士（6 年制大学学部 卒業）【→Q11 に移動】	70	9.3%
	5	修士課程・博士前期課程 在学中【→Q11 に移動】	25	3.3%

Q4 大学または大学院であなたが専攻した（在学中の方は専攻している） 学問分野をお答えください （複数回答）	6	修士（修士課程・博士前期課程 修了）【→Q11 に移動】	160	21.3%
	7	博士課程・博士後期課程 在学中【アンケート終了】	3	0.4%
	8	博士（博士課程・博士後期課程 修了）【アンケート終了】	11	1.5%
	9	その他【アンケート終了】	15	2%
		合計	751	100.0%
	1	薬学（創薬科学を含む）	182	24.2%
	2	理学	109	14.5%
	3	工学	190	25.3%
	4	農学	57	7.6%
	5	獣医学	12	1.6%
	6	医学	121	16.1%
	7	情報学	36	4.8%
	8	その他	54	7.2%
		合計	751	100.0%

（１）【創薬科学研究科（仮称）博士前期課程についての設問】

設問		選択肢	回答数	%
Q5 あなたは大学院（修士課程・博士前期課程）への進学を検討していますか （択一）	1	すぐに進学したい	25	3.3%
	2	在学中の課程修了後に進学したい	15	2.0%
	3	将来的に進学したい	46	6.1%
	4	進学は考えていない【アンケート終了】	333	44.3%
		回答権限なし	332	44.2%
		合計	751	100%
Q6 志望する大学院（修士課程・博士前期課程）の設置者の希望を選択してください （複数回答）	1	国立	57	7.6%
	2	公立	33	4.4%
	3	私立	28	3.7%
		回答権限なし	665	88.5%
		合計	751	100.0%
Q7 修士課程・博士前期課程で学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。 （複数回答）	1	薬学（創薬科学を含む）	27	3.6%
	2	理学	25	3.3%
	3	工学	31	4.1%
	4	農学	11	1.5%
	5	獣医学	3	0.4%
	6	医学	15	2.0%
	7	情報学	12	1.6%
	8	その他	5	0.7%
		回答権限なし	665	88.5%
		合計	751	100.0%
Q8 大阪公立大学大学院創薬科学研究科（仮称）博士前期課程を受験したいと思いますか （択一）	1	第一志望として受験する	29	3.9%
	2	第二志望として受験する	15	2.0%
	3	第三志望以降として受験する	10	1.3%
	4	受験しない【アンケート終了】	32	4.3%
		回答権限なし	665	88.5%
		合計	751	100.0%
Q9 大阪公立大学大学院創薬科学研究科（仮称）博士前期課程を受験して合格した場合、入学を希望しますか （択一）	1	入学する	26	3.5%
	2	志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	26	3.5%
	3	入学しない【アンケート終了】	2	0.3%
		回答権限なし	697	92.8%
		合計	751	100.0%
Q10 「入学する」と回答された方にお尋ねします。入学を希望する時期を	1	2026 年度（開設年度）	18	2.4%
	2	2027 年度	20	2.7%
	3	2028 年度以降	14	1.9%
		回答権限なし	699	93.1%
		合計	751	100.0%

お答えください (択一)			
-----------------	--	--	--

※ 構成比は全回答者 n = 751 に対する割合

(2) 【創薬科学研究科（仮称）博士後期課程についての設問】

設問	選択肢	回答数	%
Q11 あなたは大学院（博士課程・博士後期課程）への進学を検討していますか (択一)	1 すぐに進学したい	8	1.1%
	2 在学中の課程修了後に進学したい	8	1.1%
	3 将来的に進学したい	41	5.5%
	4 進学は考えていない【アンケート終了】	246	32.8%
	回答権限なし	448	59.7%
	合計	751	100.0%
Q12 志望する大学院（博士課程・博士後期課程）の設置者の希望を選択してください (複数回答)	1 国立	41	5.5%
	2 公立	30	4.0%
	3 私立	15	2.0%
	回答権限なし	694	92.4%
	合計	751	100.0%
Q13 博士課程・博士後期課程で学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。 (複数回答)	1 薬学（創薬科学を含む）	24	3.2%
	2 理学	16	2.1%
	3 工学	11	1.5%
	4 農学	9	1.2%
	5 獣医学	4	0.5%
	6 医学	18	2.4%
	7 情報学	6	0.8%
	8 その他	4	0.5%
	回答権限なし	694	92.4%
	合計	751	100.0%
Q14 大阪公立大学大学院創薬科学研究科（仮称）博士後期課程を受験したいと思いますか (択一)	1 第一志望として受験する	18	2.4%
	2 第二志望として受験する	15	2.0%
	3 第三志望以降として受験する	7	0.9%
	4 受験しない【アンケート終了】	17	2.3%
	回答権限なし	694	92.4%
Q15 大阪公立大学大学院創薬科学研究科（仮称）博士後期課程を受験して合格した場合、入学を希望しますか (択一)	合計	751	100.0%
	1 入学する	21	2.8%
	2 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	18	2.4%
	3 入学しない【アンケート終了】	1	0.1%
	回答権限なし	711	94.7%
Q16 大阪公立大学大学院創薬科学研究科（仮称）博士後期課程を受験して合格した場合、入学を希望しますか (択一)	合計	751	100.0%
	1 2026年度（開設年度）	6	0.8%
	2 2027年度	15	2.0%
	3 2028年度以降	18	2.4%
	回答権限なし	712	94.8%

※ 構成比は全回答者 n = 751 に対する割合

3. 結果の要点

要点 1) 大学院（博士前期課程・博士後期課程）への進学意向

(1) 博士前期課程への進学意向

大学院博士前期課程への進学意向を聞いたところ、以下の結果となった。この「大学院博士前期課程への進学意向」を持つ 86 人（20.5%）に、創薬科学研究科博士前期課程への入学意向を質問した。

大学院博士前期課程への進学意向（Q5）	回答数	構成比	回答数	構成比
すぐに進学したい	25	6.0%	86	20.5%
在学中の課程修了後に進学したい	15	3.6%		
将来的に進学したい	46	11.0%		
進学は考えていない	333	79.5%		
合計　＝ 419	419	100.0%		

(2) 博士後期課程への進学意向

大学院博士後期課程への進学意向を聞いたところ、以下の結果となった。この「大学院博士後期課程への進学意向」を持つ 57 人（18.8%）に、創薬科学研究科博士後期課程への入学意向を質問した。

大学院博士後期課程への進学意向（Q11）	回答数	構成比	回答数	構成比
すぐに進学したい	8	2.6%	57	18.8%
在学中の課程修了後に進学したい	8	2.6%		
将来的に進学したい	41	13.5%		
進学は考えていない	246	81.2%		
合計　＝ 303	303	100.0%		

要点 2) 大阪公立大学大学院創薬科学研究科（仮称）への受験・入学意志

(1) 創薬科学研究科博士前期課程への受験・入学意志

大阪公立大学大学院創薬科学研究科博士前期課程（仮称）への受験・入学意志については、29 人（6.9%）の受験意志（第一志望）、54 人（12.9%）の受験意志（第一志望～第三志望以降）、26 人（6.2%）の入学意志（「入学する」回答）を得た。

創薬科学研究科 博士前期課程への受験意志 (Q8)	回答数	構成比	回答数	構成比
第一志望として受験する	29	6.9%	54	12.9%
第二志望として受験する	15	3.6%		
第三志望以降として受験する	10	2.4%		
受験しない	32	7.6%		
合計 n = 419	419	100.0%		

創薬科学研究科 博士前期課程への入学意志（Q9）	回答数	構成比	回答数	構成比
入学する	26	6.2%	52	12.4%
志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	26	6.2%		
入学しない	2	0.5%		
合計 n = 419	419	100.0%		

(2) 創薬科学研究科博士後期課程への受験・入学意志

大阪公立大学大学院創薬科学研究科博士後期課程（仮称）への受験・入学意志については、18 人（5.9%）の受験意志（第一志望）、40 人（13.2%）の受験意志（第一志望～第三志望以降）、21 人（6.9%）の入学意志（「入学する」回答）を得た。

創薬科学研究科 博士後期課程への受験意志 (Q14)	回答数	構成比	回答数	構成比
第一志望として受験する	18	5.9%	40	13.2%
第二志望として受験する	15	5.0%		
第三志望以降として受験する	7	2.3%		
受験しない	17	5.6%		
合計 n = 303	303	100.0%		

創薬科学研究科 博士後期課程への入学意志 (Q15)	回答数	構成比	回答数	構成比
入学する	21	6.9%	39	12.9%
志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	18	5.9%		
入学しない	1	0.3%		
合計 n = 303	303	100.0%		

4. クロス集計

(1) 創薬科学研究科 博士前期課程

博士前期課程についての回答について、以下のクロス集計（6重クロス集計）を行った結果、3人（0.7%）の入学意志を持つ集団を得た。この集団は創薬科学研究科（仮称）博士前期課程への強い入学意志を持つと考えられる。

〔回答者 合計〕 (Q3)	〔大学院M進 学意向〕 (Q5)	〔設置者種別〕 (Q6)	〔興味のある 学問分野〕 (Q7)	〔受験意志〕 (Q8)	〔入学意志〕 (Q9)	〔入学年度〕 (Q10)
薬学・理学・ 工学・農学・ 情報学系 4年制大学学 部 在学中ま たは卒業者 419人 (100%)	(大学院博士 前期課程に) 「進学した い」 86人 (20.5%)	「公立」 33人 (7.9%)	「薬学（創薬 科学を含む） 理学 工学 農学 獣医学 医学 情報学」 32人 (7.6%)	「第一志望と して受験す る」 10人 (2.4%)	「入学する」 6人 (1.4%)	「2026年度 （開設年 度）」 3人 (0.7%)

※ %は回答者グループ全体（n = 419）に対する割合

※ 表の面積は回答数と比例しない。

（２）創薬科学研究科 博士後期課程

博士後期課程についての回答について、以下のクロス集計（６重クロス集計）を行った結果、３人（１．０％）の入学意志を持つ集団を得た。この集団は創薬科学研究科（仮称）博士後期課程への強い入学意志を持つと考えられる。

〔回答者 合計〕 (Q3)	〔大学院Ｄ進 学意向〕 (Q11)	〔設置者種別〕 (Q12)	〔興味のある 学問分野〕 (Q13)	〔受験意志〕 (Q14)	〔入学意志〕 (Q15)	〔入学年度〕 (Q16)
６年制大学学部（医学・獣医学・薬学等）在学中または卒業生 薬学・理学・工学・農学・情報学系修士課程在学中または修了者 ３０３人 (１００％)	（大学院博士後期課程に） 「進学したい」 ５７人 (１８．８％)	「公立」 ３０人 (９．９％)	「薬学（創薬科学を含む） 理学 工学 農学 獣医学 医学 情報学」 ２９人 (９．６％)	「第一志望として受験する」 １２人 (４．０％)	「入学する」 １０人 (３．３％)	「２０２６年度（開設年度）」 ３人 (１．０％)

※ ％は回答者グループ全体（n = 303）に対する割合

※ 表の面積は回答数と比例しない。

５．アンケート画面及びリーフレット（設置計画の概要）

実際のアンケート画面及びアンケート画面内で提示したリーフレットを次ページ以降に掲載する。

①アンケート画面

②リーフレット画面（設置計画の概要）

あなたについてのアンケート

アンケートにご協力をお願い致します。

回答する

回答者の皆様へ

◆アンケート内で知り得た情報について

当アンケートには機密情報が含まれます。当アンケートの内容や知り得た情報は第三者に口外・転載・漏洩することないようにお願いいたします。

◆アンケートによっては機微情報をお伺いする設問が含まれる場合があります。

回答内容は、個人が特定されない形で統計的に処理されたデータとして扱われますが、回答したくない場合は途中で回答をやめていただいて問題ありません。

回答をやめる場合はブラウザの閉じるボタンを押して終了してください。

◆推奨環境について

アンケートにお答え頂くには下記の環境が必要です。

- ・JavaScriptを有効にしてください。
- ・Cookieを有効(受け入れる)にしてください。

●WindowsPC

GoogleChrome(最新版)/Mozilla Firefox(最新版)

●MAC

Safari(最新版)

●スマートフォン/タブレット

iOS/AndroidOSの標準ブラウザ

※フィーチャーフォン(ガラケー)では回答できません。

※すべての機種での動作を保証するものではありません。

Q1. あなたの最終学歴をお答えください (必須)

- ☐ 高校卒業または在学中
- ☐ 専門学校卒業または在学中
- ☐ 短大卒業または在学中
- ☒ 大学（4年制学部）卒業または在学中
- ☐ 大学（6年制学部[医学・獣医学・薬学等]）卒業または在学中
- ☐ 大学院修士課程・博士前期課程修了または在学中
- ☐ 大学院博士課程・博士後期課程修了または在学中
- ☐ その他

つぎへ

Q2. 大学または大学院であなたが専攻した（在学中の方は専攻している）学問分野をお答えください。（複数回答） **(必須)**

☒ 薬学（創薬科学を含む）

☐ 理学

☐ 工学

☐ 農学

☐ 獣医学

☐ 医学

☐ 情報学

☐ その他

つぎへ

創薬科学系大学院についてのアンケート

アンケートにご協力をお願い致します。

回答する

回答者の皆様へ

◆アンケート内で知り得た情報について

当アンケートには機密情報が含まれます。当アンケートの内容や知り得た情報は第三者に口外・転載・漏洩することないようにお願いいたします。

◆アンケートによっては機微情報をお伺いする設問が含まれる場合があります。

回答内容は、個人が特定されない形で統計的に処理されたデータとして扱われますが、回答したくない場合は途中で回答をやめていただいて問題ありません。

回答をやめる場合はブラウザの閉じるボタンを押して終了してください。

◆推奨環境について

アンケートにお答え頂くには下記の環境が必要です。

- ・JavaScriptを有効にしてください。
- ・Cookieを有効(受け入れる)にしてください。

●WindowsPC

GoogleChrome(最新版)/Mozilla Firefox(最新版)

●MAC

Safari(最新版)

●スマートフォン/タブレット

iOS/AndroidOSの標準ブラウザ

※フィーチャーフォン(ガラケー)では回答できません。

※すべての機種での動作を保証するものではありません。

Q1. あなたの居住地をお答えください (必須)

☒ 大阪府

☐ 京都府

☐ 兵庫県

☐ 奈良県

☐ 和歌山県

☐ 滋賀県

☐ 三重県

☐ その他

つぎへ

Q2. あなたの現在の職業等をお答えください (必須)

- ☒ 学生（大学学部[4年制]）
- ☐ 学生（大学学部[6年制]）
- ☐ 学生（大学院修士課程・博士前期課程）
- ☐ 学生（大学院博士課程・博士後期課程）
- ☐ 薬剤師
- ☐ 研究職
- ☐ 会社員
- ☐ 教員
- ☐ その他

つぎへ

Q3. あなたの最終学位をお答えください（在学中で取得予定を含む） (必須)

- ☒ 4年制大学学部 在学中
- ☐ 学士（4年制大学学部 卒業）
- ☐ 6年制大学学部（医学・獣医学・薬学等）在学中
- ☐ 学士（6年制大学学部 卒業）
- ☐ 修士課程・博士前期課程 在学中
- ☐ 修士（修士課程・博士前期課程 修了）
- ☐ 博士課程・博士後期課程 在学中
- ☐ 博士（博士課程・博士後期課程 修了）
- ☐ その他

つぎへ

Q4. 大学または大学院であなたが専攻した（在学中の方は専攻している）学問分野をお答えください（複数回答） (必須)

☒ 薬学（創薬科学を含む）

☐ 理学

☐ 工学

☐ 農学

☐ 獣医学

☐ 医学

☐ 情報学

☐ その他

つぎへ

Q5. あなたは大学院（修士課程・博士前期課程）への進学を検討していますか (必須)

- ☒ すぐに進学したい
- ☐ 在学中の課程修了後に進学したい
- ☐ 将来的に進学したい
- ☐ 進学は考えていない

つぎへ

Q6. 志望する大学院（修士課程・博士前期課程）の設置者の希望を選択してください（あてはまるもの全てにマーク）（必須）

☐ 国立

☒ 公立

☐ 私立

つぎへ

Q7. 修士課程・博士前期課程で学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。（あてはまるもの全てにマーク） (必須)

☒ 薬学（創薬科学を含む）

☐ 理学

☐ 工学

☐ 農学

☐ 獣医学

☐ 医学

☐ 情報学

☐ その他

つぎへ

大阪公立大学では、2026（令和8）年4月に大学院創薬科学研究科（仮称）の設置を構想しています。研究科の博士前期課程の概要をご覧になった上で、以下の質問にお答えください。

創薬科学研究科の概要

<https://drive.google.com/file/d/1vOZcwFko5Moj2vXWRCqbns-XuKJFlm2n/view?usp=sharing>

全てのURLを確認してください。

創薬科学研究科では、薬学をはじめ医学、生命科学、工学、化学、情報学など、様々な分野から創薬科学を目指す学生を広く受け入れる予定です。

【創薬科学研究科（博士前期課程）】

入学定員 40名

修業年限 2年

創薬科学に関する講義や実験・実習を通じて、医薬品の化学構造や作用メカニズム、生物学的な影響について理解を深め、研究の土台となる知識や技術を築ける人材を養成します。

（キャンパス）

大阪公立大学中百舌鳥キャンパス

大阪府堺市中区学園町1-1

つぎへ

Q8. 大阪公立大学大学院創薬科学研究科（仮称）博士前期課程を受験したいと思いますか（必須）

大阪公立大学大学院創薬科学研究科（仮称）と類似した研究科・専攻は以下になります。

- ・名古屋大学 創薬科学研究科 基盤創薬学専攻
- ・岡山大学 医歯薬学総合研究科 薬科学専攻
- ・名古屋市立大学 薬学研究科 創薬生命科学専攻

☒ 第一志望として受験する

☐ 第二志望として受験する

☐ 第三志望以降として受験する

☐ 受験しない

つぎへ

Q9. 大阪公立大学大学院創薬科学研究科（仮称）博士前期課程を受験して合格した場合、入学を希望しますか **(必須)**

☒ 入学する

☐ 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する

☐ 入学しない

つぎへ

Q10. 「入学する」と回答された方にお尋ねします。入学を希望する時期をお答えください (必須)

☒ 2026年度（開設年度）

☐ 2027年度

☐ 2028年度以降

つぎへ

Q11. あなたは大学院（博士課程・博士後期課程）への進学を検討していますか (必須)

- ☒ すぐに進学したい
- ☐ 在学中の課程修了後に進学したい
- ☐ 将来的に進学したい
- ☐ 進学は考えていない

つぎへ

Q12. 志望する大学院（博士課程・博士後期課程）の設置者の希望を選択してください（あてはまるもの全てにマーク）

(必須)

☐ 国立

☒ 公立

☐ 私立

つぎへ

Q13. 博士課程・博士後期課程で学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。（あてはまるもの全てにマーク） **(必須)**

☒ 薬学（創薬科学を含む）

☐ 理学

☐ 工学

☐ 農学

☐ 獣医学

☐ 医学

☐ 情報学

☐ その他

つぎへ

大阪公立大学では、2026（令和8）年4月に大学院創薬科学研究科（仮称）の設置を構想しています。研究科の博士後期課程の概要をご覧になった上で、以下の質問にお答えください。

創薬科学研究科の概要

<https://drive.google.com/file/d/1vOZcwFko5Moj2vXWRCqbns-XuKJFlm2n/view?usp=sharing>

創薬科学研究科では、薬学をはじめ医学、生命科学、工学、化学、情報学など、様々な分野から創薬科学を目指す学生を広く受け入れる予定です。

【創薬科学研究科（博士後期課程）】

入学定員 8名

修業年限 3年

創薬科学のフロンティアに挑戦し、画期的な新知見を生み出すことのできる人材を養成します。自らの研究プロジェクトを統括し、研究グループや共同研究者を指導するリーダーシップを有する人材に加え、創薬科学研究で得られた成果を国内外で社会に還元し、製薬企業や医療、健康分野で貢献できるグローバルな人材の養成を目指します。

（キャンパス）

大阪公立大学中百舌鳥キャンパス

大阪府堺市中区学園町1-1

つぎへ

Q14. 大阪公立大学大学院創薬科学研究科（仮称）博士後期課程を受験したいと思いますか **(必須)**

大阪公立大学大学院創薬科学研究科（仮称）と類似した研究科・専攻は以下になります。

- ・名古屋大学 創薬科学研究科 基盤創薬学専攻
- ・岡山大学 医歯薬学総合研究科 薬科学専攻
- ・名古屋市立大学 薬学研究科 創薬生命科学専攻

☒ 第一志望として受験する

☐ 第二志望として受験する

☐ 第三志望以降として受験する

☐ 受験しない

つぎへ

Q15. 大阪公立大学大学院創薬科学研究科（仮称）博士後期課程を受験して合格した場合、入学を希望しますか **(必須)**

☒ 入学する

☐ 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する

☐ 入学しない

つぎへ

Q16. 「入学する」と回答された方にお尋ねします。入学を希望する時期をお答えください (必須)

☒ 2026年度（開設年度）

☐ 2027年度

☐ 2028年度以降

つぎへ

大阪公立大学大学院 創薬科学研究科 創薬科学専攻※

開設時期	2026年4月		
学位	修士(創薬科学)	博士(創薬科学)	
入学定員	博士前期課程 40名	博士後期課程 8名	
修業年限	2年	3年	
入試種別	一般選抜・外国人留学生特別選抜	一般選抜・外国人留学生特別選抜・社会人特別選抜	
学生納付金	[入学金] 282,000円(大阪府民及びその子)、382,000円(その他の者) [授業料] 535,800円(年額) [初年度納付金合計] 817,800円(大阪府民及びその子)、917,800円(その他の者)		
設置場所	〒599-8531 大阪府堺市中区学園町1番1号(大阪公立大学 中百舌鳥キャンパス)		

ACCESS



- 電車をご利用の方
- 南海高野線「白鷺駅」下車、南西へ約500m、徒歩約7分。
 - 南海高野線「中百舌鳥駅」下車、南東へ約1,000m、徒歩約13分。
 - Osaka Metro御堂筋線「なかもず駅(5号出口)」から南東へ約1,000m、徒歩約13分。

- バスをご利用の方
- 南海高野線「中百舌鳥駅」・Osaka Metro御堂筋線「なかもず駅」から南海バス(北野田駅前行131、131-C、132系統)で約5分、「府立大学前」下車。
 - 南海本線「堺駅」から南海バス(北野田駅前行131、132、132-C系統)で約24分、JR阪和線・南海高野線「三国ヶ丘駅」から南海バス(北野田駅前行131、132、132-C系統)で約14分、「府立大学前」下車。


創薬科学研究科※Webサイト
<https://omu.ac.jp/dds-special/>

大阪公立大学Webサイト
<https://www.omu.ac.jp/>


[お問い合わせ先] 大阪公立大学創薬科学研究科※設置準備担当(教育推進課 教育企画担当) Mail : gr-kyik-kikaku@omu.ac.jp

※研究科・専攻名称は仮称。設置計画は構想中であり、内容に変更が生じる場合があります。

創薬に、
知の化学反応を。

大阪公立大学 大学院

創薬科学研究科※

2026年4月 開設予定

※研究科・専攻名称は仮称。
設置計画は構想中であり、内容に変更が生じる場合があります。

1 異分野融合に基づく教育・研究

異なる専門分野の教員で構成される研究科の特徴を生かし、「異分野体験型創薬ラボ演習プログラム」や多様な特論講義等を通して、画期的な創薬パラダイムの創成を可能にする教育・研究を実践する。

2 産学共創教育

製薬企業と連携して開講される「創薬科学キャリアデザイン」や「ジョブ型創薬研究インターンシップ」の履修を通して、製薬企業や関連業界において即戦力となる人材を育成する。

3 グローバル人材育成教育

「創薬科学グローバルプレゼンテーション」、「国際性涵養プログラム」、および「グローバル合宿・在外研究体験」の履修を通して、実践的な英語力を身に付け、グローバルに活躍できる人材を育成する。

設置の理念

コロナ禍により顕在化したパンデミックの脅威、高齢化社会、経済格差、グローバル化などに起因するヘルスケア分野の課題の複雑化、さらに地球温暖化に伴う昆虫媒介性熱帯病の拡大への懸念など、創薬を取り巻く社会環境は大きく変化しています。こうした状況において、創薬科学研究ではモダリティ（治療を目的とした介入手段）の開発を含む新たな発想やアプローチによる課題解決が求められています。一方、薬学を基盤とする従来の知識・技術体系による創薬には限界があるため、多様な学術領域を融合した「総合知」による解決策が模索され、それに伴い医薬品産業構造などのパラダイムシフトが進行しています。

大阪公立大学は理学、工学、農学、獣医学、医学、情報学、看護学、生活科学、リハビリテーション学などの自然科学系、文学、経済学、経営学などの人文・社会科学系の学術領域を有する総合大学であり、異分野融合研究によるユニークな発想やアプローチ、文理融合による総合知の探究が可能です。これら多様な学術領域を統合した「総合知による創薬」を実現するための基盤教育として、2020年4月より学士課程に創薬科学副専攻を設置し、理学、工学、農学、獣医学部に所属する優秀な学生に対して、ハイレベルな実習や座学を通じて創薬の基礎を教授しています。

創薬科学研究科※では、創薬科学の基礎となる学問分野を学んだ学生や社会人がさらに高度な専門的知識や技術を習得し、独創的かつ論理的な思考能力、高度な課題解決能力、自立的な研究推進能力を身に付け、グローバルな創薬科学研究者として活躍できることを目指します。さらに、大阪公立大学の強みを生かしたモダリティ基盤技術およびバイオ医薬品の開発研究を推進することで、創薬科学研究科※がアカデミア（疾患の発症機序などの基礎研究）と企業（医薬品開発）を繋ぐ「創薬ハブ」としての役割を果たすことを目指します。

養成する人材像

創薬科学研究科※は、次の特性や能力を持ち、創薬科学分野、及び、ヘルスケアサイエンスを含めた関連分野の発展に寄与する次世代のリーダーとなる研究者や専門家を養成する。

- ① 創薬科学分野において高度な専門知識と技術を持ち、優れた問題解決能力、高い創造性とイノベーション能力、高い倫理観と社会的責任感を兼ね備える
- ② 国際的な研究動向や標準を理解し、グローバルな視点で創薬科学研究を進めることができる
- ③ 科学技術の進歩に対応し、生命現象の基本原則を探究するという基礎科学的視点を備え、継続的に学習し続ける姿勢を持ち、自己評価とフィードバックを基に自己成長を追求する意欲をもつ

【博士前期課程】

- ① 医薬品の化学構造や作用メカニズム、生物学的な影響について理解を深め、研究の土台となる基礎科学的思考力、知識や技術を築くことができる
- ② 自らの研究テーマを設定し、それに基づいて研究計画を立案し、実験の実施やデータの収集・解析を通じて科学的な問題解決能力
- ③ 自らの研究成果を適切に社会に伝える高いコミュニケーション能力

【博士後期課程】

- ① 創薬科学とその関連分野のフロンティアに挑戦し、画期的な新知見を生み出すことができる
- ② 自らの研究プロジェクトを統括し、研究グループや共同研究者を指導するリーダーシップ
- ③ 創薬科学研究や関連分野で得られた成果を国内外で社会に還元し、製薬企業や医療、健康分野で貢献できるグローバルな人材

アドミッション・ポリシー

創薬科学研究科※では、以下の能力を有する人物を求める。

【博士前期課程】

- ① **知識融合と創造性**: 創薬科学は、物理学、化学、生物学、医学、工学などの複数の分野の知識が統合される領域である。これらの分野で優れた学業成績を持ち、特に異分野間での知識融合やアイデア発展能力、論理的思考力、融合研究に関するポテンシャルや創造性を有する人物。
- ② **基礎学力**: 本研究科の研究・教育に必要な基礎学力を備えている人物。
- ③ **コミュニケーション能力**: 異なるバックグラウンドを持つ研究者同士が協力するために必要な、高いコミュニケーション能力や協調性を有する人物。
- ④ **英語能力**: 英文学術論文の読解力、及び英語による表現力を有する人物。

【博士後期課程】

- ① **知識融合とアイデア発展能力**: 複数の分野で優れた学業成績を持ち、特に異分野間での知識融合やアイデア発展能力、論理的思考力、およびインターディシプリナリーなアプローチができる高いポテンシャルを持つ人物。
- ② **基礎学力とグローバルな視野**: 大学院博士前期課程修了程度以上の基礎学力を有し、グローバルな環境下で学際研究に積極的に取り組む意欲があり、高度な英文読解力と英語表現力を持つ人物。
- ③ **リーダーシップとコミュニケーション能力**: 異なるバックグラウンドを持つ研究者を牽引するリーダーシップを発揮しながら研究を進め、その成果を適切に伝える高いコミュニケーション能力を有する人物。
- ④ **研究能力と知的好奇心**: 知的好奇心を持ち、創薬科学分野あるいは関連する分野で博士前期課程修了以上の研究能力を持ち、自ら研究を立案・計画・遂行できる優れた能力を備えた人物。

上記のほか、創薬科学研究や実務に関連する経験（研究実績、インターンシップ、業界での経験など）を持つ人物の出願も期待する。

カリキュラムの概要

	大学院共通教育科目	専門科目・研究指導科目
博士前期課程	研究公正 など	- 生体高分子創薬科学特論 - 標識創薬化学特論 - 創薬構造生物学特論 - 植物生理化学特論 - 分子生物学特論 - 病態創薬科学特論 - 細胞生物化学特論 - 創薬材料工学特論 - 創薬生命化学特論 - 機能生化学特論 - ゲノム安全科学特論 - 創薬免疫工学特論 - 創薬抗体工学特論 - 創薬計算科学特論 - 生体高分子化学特論 - 創薬科学特別講義 など
		異分野体験型創薬ラボ演習プログラム - 異分野体験型創薬ラボ演習プログラム - 創薬科学グローバルプレゼンテーション - 国際性涵養(かんよう)プログラム - 創薬科学キャリアデザイン - 研究企画ゼミナール 異分野体験型創薬ラボ演習プログラム 異なる専門分野において優れた研究実績を有する教員が行う最先端の創薬研究を体験する。本演習を通じて各分野における最先端の実験技術やそれぞれに特異的な研究手法の修得と他分野の視点と手法を学び、融合教育を実現する。
博士後期課程	- 研究公正 - イノベーション 創出型研究者養成 など	- 創薬科学特別研究 - 創薬科学特別演習
		ジョブ型創薬研究インターンシップ - ジョブ型創薬研究インターンシップ - グローバル合宿・在外研究体験 - 創薬科学キャリアデザイン - 研究企画ゼミナール ジョブ型創薬研究インターンシップ 製薬企業と大学が連携して大学院教育を行い、国際競争に耐え得る研究力に裏打ちされた実践力を養成する。

大阪公立大学大学院
創薬科学研究科 創薬科学専攻（仮称）
採用意向アンケート調査
報告書

令和 6 年 11 月 30 日
株式会社高等教育総合研究所

1. 調査概要

調査目的	「大阪公立大学大学院創薬科学研究科（仮称）（博士前期課程、博士後期課程）」（令和8年度に設置予定）における修了後の採用・就職（人材需要）の見込みを測定することを目的とする。
調査対象	創薬科学研究科の修了後に採用が見込まれる以下の事業所 （業種）製薬系、医療系、化学系、食品系企業等 （地域）近畿地区を中心とし首都圏、中部地区等全国の事業所に依頼 （依頼件数）合計：1,000 事業所
調査内容	・回答事業所の基本情報（業種・所在地等） ・創薬科学研究科 博士前期課程（仮称）修了生の採用意向 ・創薬科学研究科 博士後期課程（仮称）修了生の採用意向
調査時期	令和6年10月
調査方法	調査対象事業所の人事・採用担当者宛にアンケート及びリーフレットを郵送することにより実施。回収はオンラインで行った。
回収件数	有効回答数：98 件（配布 1,000 件に対し、回収率 9.8%）
調査結果の概要	（博士前期課程）入学定員：40 人 ・採用意向（「採用したい」「採用を前向きに検討したい」）：72 事業所（73.5%） ・回答事業所における継続的な採用可能人数の合計：137 人 （博士後期課程）入学定員：8 人 ・採用意向（「採用したい」「採用を前向きに検討したい」）：61 事業所（62.2%） ・回答事業所における継続的な採用可能人数の合計：101 人

2. 集計表

番号	設問	選択肢		回収合計	98 件
				回答数	構成比
問 1	貴事業所の所在地をお答えください。（択一）	1	大阪府	19	19.4%
		2	京都府	2	2.0%
		3	兵庫県	6	6.1%
		4	奈良県	3	3.1%
		5	和歌山県	0	0.0%
		6	滋賀県	1	1.0%
		7	首都圏	40	40.8%
		8	中部地区	12	12.2%
		9	その他	15	15.3%
			合計	98	100.0%
問 2	貴事業所の事業種をお答えください。（択一）	1	製薬系企業	57	58.2%
		2	医療系企業	5	5.1%
		3	化学系企業	19	19.4%
		4	食品系企業	6	6.1%
		5	医療機関	0	0.0%
		6	研究機関	0	0.0%
		7	その他	11	11.2%
			合計	98	100.0%
問 3	大阪公立大学が設置構想中の大学院 創薬科学研究科（仮称）が養成する 人材は、今後の社会においてニーズ が高いと思われますか。（択一）	1	人材ニーズは非常に高い	35	35.7%
		2	人材ニーズは高い	48	49.0%
		3	どちらとも言えない	11	11.2%
		4	人材ニーズはあまり高くない	1	1.0%
		5	人材ニーズは高くない	3	3.1%
			合計	98	100.0%
問 4	大阪公立大学が設置構想中の大学院 創薬科学研究科創薬科学専攻 博士 前期課程（仮称）が養成する人材 （修士）を、貴事業所で継続的に採 用したいと思われますか。（択一）	1	採用したい	26	26.5%
		2	採用を前向きに検討したい	46	46.9%
		3	採用しない	9	9.2%
		4	どちらとも言えない	17	17.3%
			合計	98	100.0%
問 5	【（博士前期課程の修了者を）「採 用したい」「採用を前向きに検討し たい」の回答者のみ】 単年度で採用可能な人数についてお 答えください。（択一）	1	1 人	42	42.9%
		2	2 人	15	15.3%
		3	3 人	5	5.1%
		4	4 人	0	0.0%
		5	5 人以上	10	10.2%
			合計	72	73.5%
問 6	大阪公立大学が設置構想中の大学院 創薬科学研究科創薬科学専攻 博士 後期課程（仮称）が養成する人材 （博士）を、貴事業所で継続的に採 用したいと思われますか。（択一）	1	採用したい	17	17.3%
		2	採用を前向きに検討したい	44	44.9%
		3	採用しない	8	8.2%
		4	どちらとも言えない	29	29.6%
			合計	98	100.0%
問 7	【（博士後期課程の修了者を）「採 用したい」「採用を前向きに検討し たい」の回答者のみ】 単年度で採用可能な人数についてお 答えください。（択一）	1	1 人	44	44.9%
		2	2 人	8	8.2%
		3	3 人	2	2.0%
		4	4 人	0	0.0%
		5	5 人以上	7	7.1%
			合計	61	62.2%

3. 結果の要点

要点 1) 大阪公立大学大学院創薬科学研究科 (M・D) の養成する人材の社会的ニーズ

83 事業所 (84.7%) から「本研究科で養成する人材の社会的ニーズは非常に高い」(35 件) または「人材ニーズは高い」(48 件) との回答を得た (問 3)。本研究科の養成する人材について、多くの事業所からその社会的ニーズについて肯定的な評価を得た。

要点 2) 大阪公立大学大学院創薬科学研究科の修了生の採用意向

(1) 博士前期課程

入学定員の 40 人に対し、72 事業所 (73.5%) から、「大阪公立大学大学院創薬科学研究科 博士前期課程の修了者 (修士) を採用したい」(26 事業所) または「採用を前向きに検討したい」(46 事業所) の回答が示された (問 4)。

(採用可能人数)

採用意向及び採用検討意向を示した 72 事業所における継続的な採用可能人数の合計は、137 人となった (問 5)。その中でも、採用意向 (「採用したい」回答) を示した 26 事業所のみにおける継続的な採用可能人数の合計は、68 人となった (問 5)。

(2) 博士後期課程

入学定員の 8 人に対し、61 事業所 (62.2%) から、「大阪公立大学大学院創薬科学研究科 博士後期課程の修了者 (博士) を採用したい」(17 事業所) または「採用を前向きに検討したい」(44 事業所) の回答が示された (問 6)。

(採用可能人数)

採用意向及び採用検討意向を示した 61 事業所における継続的な採用可能人数の合計は、101 人となった (問 7)。その中でも、採用意向 (「採用したい」回答) を示した 17 事業所における継続的な採用可能人数の合計は、43 人となった (問 7)。

博士前期課程、博士後期課程とも、入学定員を大きく上回る継続的な採用意向を得た。

4. アンケート画面及びリーフレット (設置計画の概要)

実際のアンケート画面及び郵送で配布したリーフレットを次ページ以降に掲載する。

①アンケート画面

②リーフレット (設置計画の概要)

5. 自由回答

※回答事業所からのコメント（自由回答）は以下に全て記載した。

	所在地	事業種	（自由回答）設置構想中の大阪公立大学大学院創薬科学研究科（仮称）について期待される点、ご要望
1	大阪府	製薬系企業	要望などではございませんが、問 5.6 の回答につきまして追記させていただきます。各年度の採用希望数によって変わりますが、学位での人数制限は行っていないことから 5 人以上との回答としております。
2	滋賀県	製薬系企業	有識者が必要だが、薬剤師だけでは、業務が進まないことが多い。その中で、創薬の知識を持つ人材の幅が広がることは大いに期待する。一方、申請業務などの実務もカリキュラムの中で学んでいただけると、より実践的となる。
3	大阪府	製薬系企業	有機化学・有機合成系企業のため、有機合成の実験経験が豊富な方であれば、より望ましいと考えております。
4	大阪府	化学系企業	弊社が塗料の製造開発をする会社のため、在学中に学んだ研究が塗料の製造開発に繋がれば魅力的であると感じる。塗料は究極の混ぜ物のため、いつ、どんなことがどんなものに、どんな形で関連性があるかは未知数です。そういった面において貴学での設置構想中の研究科に魅力と期待を感じます。
5	首都圏	化学系企業	農薬を扱うメーカーですが、創薬スキルは、医薬品同様農薬の開発に大事なスキルと考えております。
6	大阪府	製薬系企業	地元の製薬企業として地元で医薬品に関して研究される学生様が集まることは大歓迎です。また、本学科とご縁をつながせていただき、優秀な貴学の学生様を採用させていただくことを強く希望しております。
7	首都圏	医療系企業	大学などの研究機関で保有する生理活性成分または化合物などを製薬、化粧品、食品業界などへ社会実装させる橋渡しの存在が望まれていると思いますので、期待したいところです。
8	首都圏	医療系企業	他校の薬学科出身（薬剤師資格保有）で研究を希望して大学院に進む学生の需要は高い。
9	首都圏	製薬系企業	創薬と治療の境目が曖昧になってきていると感じています。創薬科学といった限定的な研究科よりも、新たな治療モデルにフォーカスしたさまざまな治療手段に注力した研究科のほうが魅力を感じます。
10	首都圏	製薬系企業	創薬、医薬業界での入社、就業に意欲的な学生が増えて業界全体のレベルの向上を期待します。
11	首都圏	製薬系企業	製薬企業への志望が、研究職、開発職に集中し、品質や工場への志望度が低いことが気になります。国内生産の技術が上がらないと、今の薬の需要に供給が追いつかない現状が変わらないのではと思います。
12	首都圏	食品系企業	人間力も兼ね備えた人材の育成を期待しています。
13	首都圏	製薬系企業	試験 開発 柔軟に対応出来る人材を希望します。
14	首都圏	製薬系企業	産学官連携でベンチャー企業などともタイアップして欲しい。
15	中部地区	製薬系企業	広い知見を持つ人財の教育に期待します。
16	大阪府	その他	現在は行っていないですが、今後開発職の新卒を募集することになった際にはぜひ弊社をご検討いただくと考えております。

17	奈良県	食品系企業	健康食品など通常食品と異なる業態としては、創薬技術をもった人材は即戦力の目線では重要だが博士課程を卒業するほどのハイレベル人材の雇用と考えると中小企業のレベルでは非常にもったいないと考えます。
18	首都圏	製薬系企業	近年創薬技術の進歩に伴い、必要となる知識は「薬学」だけではなく多岐にわたると考えております。そのような現状を踏まえ、多角的な知識である「総合知」で、あらゆる問題に対して解決に向けて行動できる人材育成理念に共感致しました。
19	京都府	製薬系企業	企業との協業などにより実践的、即戦力十なりうる人材育成していただけることを期待しています。
20	中部地区	製薬系企業	企業との技術交流新設大学には、製薬企業との積極的な技術交流を期待しています。具体的には、共同研究プロジェクトの推進や、企業の研究者による講義やセミナーの開催を通じて、最新の技術や知識を共有したいと考えています。これにより、学生が実践的な知識を身につけるとともに、企業側も新たな視点やアイデアを得ることができます。人材採用・育成製薬企業としては、優秀な人材に活躍してもらい、産業が発展することを期待しています。企業としては、学生の就職に関する情報提供やインターンシップなどでの交流を積極的に行いたいと考えています。そのため、大学との密なコミュニケーションを図り、学生が企業のニーズに応じたスキルを身につけられるよう支援していきたいと思っています。
21	奈良県	製薬系企業	学内の説明会等あれば参加させていただきます。
22	首都圏	医療系企業	学生へ説明会や座談会などの機会をつくっていただけると嬉しいです。例えば、オンラインにて単独説明会（質疑応答含めた 50 分～60 分）や合同説明会（参加企業ごとに 3 分 PR タイムあり）など
23	首都圏	製薬系企業	医薬品生産会社なので、研究思考＋モノづくり思考、両方をもった学生さんを養成していただけると大変嬉しく思います。製薬会社の工場でも、スケールアップ検討など研究思考を必要とする仕事がいくつもあります。
24	その他	製薬系企業	ご案内にある養成する人材像とアドミッションポリシーには、物理・化学・生物学・医学・工学等の学びだけでなく、それをより価値あるものにするための国際的なコミュニケーション能力を兼ね備えたエキスパートを育成するというビジョンが見えています。本当にそのような人材を育成するのであれば、教える側の人たちもそのような行動特性と価値観を備えていなければ実現はできませんので、そのような Faculty ・教授陣が揃っているのだと思うとされます。その方々が発揮する国際性やグローバルスタンダードに基づく考え方に多くの期待があります。そのような教えを授かった学生たちは、そのことをさらに周囲や後進に伝えていくこととなります。日本は日本の良い部分をしっかりと理解し、驕らず、卑屈にならず、否定せず、そして諸外国の良いところとそうでもないところを冷静に見極めて国際社会の中で良い存在感を発揮していくことが重要です。そのような考え方を持つ人材の輩出は御校だけでなく、全ての教育機関に求められるものです。期待しています。
25	大阪府	その他	かつて創薬研究開発に関わった者として、創薬の難しさを多々経験しました。学問レベルと最先端の創薬のギャップを感じますので、基礎学問は当然必要ですが、実際の創薬現場に触れる機会をできるだけ多く設けるのがよいのではないかと考えています。
26	首都圏	製薬系企業	インターンシップ等、企業訪問を積極的に行っていただき、製薬会社で働くイメージを付けていただければと思います。ご希望がございましたら受け入れを行いますので、引き続きよろしく願い申し上げます。

大阪公立大学大学院 創薬科学研究科（仮称） 採用意向アンケート調査

< アンケート対象 >

製薬会社・医療機関・研究機関等事業所 人事・採用ご担当者様

1/4ページ

大阪公立大学では、2026（令和8）年4月に大学院創薬科学研究科（仮称）の設置を構想しています。この採用意向アンケート調査を通して、研究科の構想内容に反映したいと考えています。調査へのご協力をお願いいたします。

※本調査は、大阪公立大学から委託を受けた株式会社高等教育総合研究所が実施しています。

※本アンケートおよび資料に記載されている内容については予定であり、変更される可能性があります。

規約に同意する **必須**

本アンケートへの回答は一事業所につき一回のみとなります。

☒ 同意する

次へ

大阪公立大学大学院 創薬科学研究科（仮称） 採用意向アンケート調査

<アンケート対象>

製薬会社・医療機関・研究機関等事業所 人事・採用ご担当者様

2/4ページ

問1 貴事業所の所在地をお答えください。（あてはまるもの1つにマーク） **必須**

☒ 大阪府

☐ 京都府

☐ 兵庫県

☐ 奈良県

☐ 和歌山県

☐ 滋賀県

☐ 首都圏

☐ 中部地区

☐ その他

次へ

戻る

大阪公立大学大学院 創薬科学研究科（仮称） 採用意向アンケート調査

<アンケート対象>

製薬会社・医療機関・研究機関等事業所 人事・採用ご担当者様

3/4ページ

問2 貴事業所の事業種をお答えください。（あてはまるもの1つにマーク） **必須**

☒ 製薬系企業

☐ 医療系企業

☐ 化学系企業

☐ 食品系企業

☐ 医療機関

☐ 研究機関

☐ その他

次へ

戻る

大阪公立大学大学院 創薬科学研究科（仮称） 採用意向アンケート調査

< アンケート対象 >

製薬会社・医療機関・研究機関等事業所 人事・採用ご担当者様

4/4ページ

同封した大阪公立大学大学院創薬科学研究科（仮称）のリーフレットをご覧
の上で、以下の設問にお答えください。

問3 大阪公立大学が設置構想中の大学院創薬科学研究科（仮称）が養成する人材は、今後の社会においてニーズが高いと思われますか。（あてはまるもの1つにマーク） **必須**

☒ 人材ニーズは非常に高い

☐ 人材ニーズは高い

☐ どちらとも言えない

☐ 人材ニーズはあまり高くない

☐ 人材ニーズは高くない

問4 大阪公立大学が設置構想中の大学院創薬科学研究科創薬科学専攻 博士前期課程（仮称）が養成する人材（修士）を、貴事業所で継続的に採用したいと思われますか。（あてはまるもの1つにマーク） **必須**

☒ 採用したい

☐ 採用を前向きに検討したい

☐ 採用しない

☐ どちらとも言えない

問5 （博士前期課程の修了者を）「採用したい」と回答された場合、単年度で採用可能な人数についてお答えください。（あてはまるもの1つにマーク） **必須**

☒ 1人

☐ 2人

☐ 3人

☐ 4人

☐ 5人以上

問6 大阪公立大学が設置構想中の大学院創薬科学研究科創薬科学専攻 博士後期課程（仮称）が養成する人材（博士）を、貴事業所で継続的に採用したいと思われますか。（あてはまるもの1つにマーク） **必須**

☒ 採用したい

☐ 採用を前向きに検討したい

☐ 採用しない

☐ どちらとも言えない

問7 （博士後期課程の修了者を）「採用したい」と回答された場合、単年度で採用可能な人数についてお答えください。（あてはまるもの1つにマーク） **必須**

☒ 1人

☐ 2人

☐ 3人

☐ 4人

☐ 5人以上

（自由回答）設置構想中の大阪公立大学大学院創薬科学研究科（仮称）について期待される点、ご要望がございましたらご記入をお願いします。 **任意**

（自由回答）宜しければ貴社名・貴事業所名をお教えてください。こちらは、どの企業にご回答いただいたかを把握するための質問であり、アンケート結果として、特定の企業・団体が公表されることはありません。 **任意**

送信

戻る

大阪公立大学大学院 創薬科学研究科 創薬科学専攻※

開設時期	2026年4月		
学位	修士(創薬科学)	博士(創薬科学)	
入学定員	博士前期課程 40名	博士後期課程 8名	
修業年限	2年	3年	
入試種別	一般選抜・外国人留学生特別選抜	一般選抜・外国人留学生特別選抜・社会人特別選抜	
学生納付金	[入学金] 282,000円(大阪府民及びその子)、382,000円(その他の者) [授業料] 535,800円(年額) [初年度納付金合計] 817,800円(大阪府民及びその子)、917,800円(その他の者)		
設置場所	〒599-8531 大阪府堺市中区学園町1番1号(大阪公立大学 中百舌鳥キャンパス)		

ACCESS



- 電車をご利用の方
- 南海高野線「白鷺駅」下車、南西へ約500m、徒歩約7分。
 - 南海高野線「中百舌鳥駅」下車、南東へ約1,000m、徒歩約13分。
 - Osaka Metro御堂筋線「なかもず駅(5号出口)」から南東へ約1,000m、徒歩約13分。

- バスをご利用の方
- 南海高野線「中百舌鳥駅」・Osaka Metro御堂筋線「なかもず駅」から南海バス(北野田駅前行131、131-C、132系統)で約5分、「府立大学前」下車。
 - 南海本線「堺駅」から南海バス(北野田駅前行131、132、132-C系統)で約24分、JR阪和線・南海高野線「三国ヶ丘駅」から南海バス(北野田駅前行131、132、132-C系統)で約14分、「府立大学前」下車。



創薬科学研究科※Webサイト
https://omu.ac.jp/dds-special/



大阪公立大学Webサイト
https://www.omu.ac.jp/



[お問い合わせ先] 大阪公立大学創薬科学研究科※設置準備担当(教育推進課 教育企画担当) Mail : gr-kyik-kikaku@omu.ac.jp

※研究科・専攻名称は仮称。設置計画は構想中であり、内容に変更が生じる場合があります。

創薬に、
知の化学反応を。

大阪公立大学 大学院

創薬科学研究科※

2026年4月 開設予定

※研究科・専攻名称は仮称。
設置計画は構想中であり、内容に変更が生じる場合があります。

創薬科学研究科※の特長

1 異分野融合に基づく教育・研究

異なる専門分野の教員で構成される研究科の特徴を生かし、「異分野体験型創薬ラボ演習プログラム」や多様な特論講義等を通して、画期的な創薬パラダイムの創成を可能にする教育・研究を実践する。

2 産学共創教育

製薬企業と連携して開講される「創薬科学キャリアデザイン」や「ジョブ型創薬研究インターンシップ」の履修を通して、製薬企業や関連業界において即戦力となる人材を育成する。

3 グローバル人材育成教育

「創薬科学グローバルプレゼンテーション」、「国際性涵養プログラム」、および「グローバル合宿・在外研究体験」の履修を通して、実践的な英語力を身に付け、グローバルに活躍できる人材を育成する。

設置の理念

コロナ禍により顕在化したパンデミックの脅威、高齢化社会、経済格差、グローバル化などに起因するヘルスケア分野の課題の複雑化、さらに地球温暖化に伴う昆虫媒介性熱帯病の拡大への懸念など、創薬を取り巻く社会環境は大きく変化しています。こうした状況において、創薬科学研究ではモダリティ（治療を目的とした介入手段）の開発を含む新たな発想やアプローチによる課題解決が求められています。一方、薬学を基盤とする従来の知識・技術体系による創薬には限界があるため、多様な学術領域を融合した「総合知」による解決策が模索され、それに伴い医薬品産業構造などのパラダイムシフトが進行しています。

大阪公立大学は理学、工学、農学、獣医学、医学、情報学、看護学、生活科学、リハビリテーション学などの自然科学系、文学、経済学、経営学などの人文・社会科学系の学術領域を有する総合大学であり、異分野融合研究によるユニークな発想やアプローチ、文理融合による総合知の探究が可能です。これら多様な学術領域を統合した「総合知による創薬」を実現するための基盤教育として、2020年4月より学士課程に創薬科学副専攻を設置し、理学、工学、農学、獣医学部に所属する優秀な学生に対して、ハイレベルな実習や座学を通じて創薬の基礎を教授しています。

創薬科学研究科※では、創薬科学の基礎となる学問分野を学んだ学生や社会人がさらに高度な専門的知識や技術を習得し、独創的かつ論理的な思考能力、高度な課題解決能力、自立的な研究推進能力を身に付け、グローバルな創薬科学研究者として活躍できることを目指します。さらに、大阪公立大学の強みを生かしたモダリティ基盤技術およびバイオ医薬品の開発研究を推進することで、創薬科学研究科※がアカデミア（疾患の発症機序などの基礎研究）と企業（医薬品開発）を繋ぐ「創薬ハブ」としての役割を果たすことを目指します。

養成する人材像

創薬科学研究科※は、次の特性や能力を持ち、創薬科学分野、及び、ヘルスケアサイエンスを含めた関連分野の発展に寄与する次世代のリーダーとなる研究者や専門家を養成する。

- ① 創薬科学分野において高度な専門知識と技術を持ち、優れた問題解決能力、高い創造性とイノベーション能力、高い倫理観と社会的責任感を兼ね備える
- ② 国際的な研究動向や標準を理解し、グローバルな視点で創薬科学研究を進めることができる
- ③ 科学技術の進歩に対応し、生命現象の基本原則を探究するという基礎科学的視点を備え、継続的に学習し続ける姿勢を持ち、自己評価とフィードバックを基に自己成長を追求する意欲をもつ

【博士前期課程】

- ① 医薬品の化学構造や作用メカニズム、生物学的な影響について理解を深め、研究の土台となる基礎科学的思考力、知識や技術を築くことができる
- ② 自らの研究テーマを設定し、それに基づいて研究計画を立案し、実験の実施やデータの収集・解析を通じて科学的な問題解決能力
- ③ 自らの研究成果を適切に社会に伝える高いコミュニケーション能力

【博士後期課程】

- ① 創薬科学とその関連分野のフロンティアに挑戦し、画期的な新知見を生み出すことができる
- ② 自らの研究プロジェクトを統括し、研究グループや共同研究者を指導するリーダーシップ
- ③ 創薬科学研究や関連分野で得られた成果を国内外で社会に還元し、製薬企業や医療、健康分野で貢献できるグローバルな人材

アドミッション・ポリシー

創薬科学研究科※では、以下の能力を有する人物を求める。

【博士前期課程】

- ① **知識融合と創造性**:創薬科学は、物理学、化学、生物学、医学、工学などの複数の分野の知識が統合される領域である。これらの分野で優れた学業成績を持ち、特に異分野間での知識融合やアイデア発展能力、論理的思考力、融合研究に関するポテンシャルや創造性を有する人物。
- ② **基礎学力**:本研究科の研究・教育に必要な基礎学力を備えている人物。
- ③ **コミュニケーション能力**:異なるバックグラウンドを持つ研究者同士が協力するために必要な、高いコミュニケーション能力や協調性を有する人物。
- ④ **英語能力**:英文学術論文の読解力、及び英語による表現力を有する人物。

【博士後期課程】

- ① **知識融合とアイデア発展能力**:複数の分野で優れた学業成績を持ち、特に異分野間での知識融合やアイデア発展能力、論理的思考力、およびインターディシプリナリーなアプローチができる高いポテンシャルを持つ人物。
- ② **基礎学力とグローバルな視野**:大学院博士前期課程修了程度以上の基礎学力を有し、グローバルな環境下で学際研究に積極的に取り組む意欲があり、高度な英文読解力と英語表現力を持つ人物。
- ③ **リーダーシップとコミュニケーション能力**:異なるバックグラウンドを持つ研究者を牽引するリーダーシップを発揮しながら研究を進め、その成果を適切に伝える高いコミュニケーション能力を有する人物。
- ④ **研究能力と知的好奇心**:知的的好奇心を持ち、創薬科学分野あるいは関連する分野で博士前期課程修了以上の研究能力を持ち、自ら研究を立案・計画・遂行できる優れた能力を備えた人物。

上記のほか、創薬科学研究や実務に関連する経験（研究実績、インターンシップ、業界での経験など）を持つ人物の出願も期待する。

カリキュラムの概要

	大学院共通教育科目	専門科目・研究指導科目			
博士前期課程	● 研究公正 など	● 生体高分子創薬科学特論 ● 分子生物学特論 ● 創薬生命化学特論 ● 創薬抗体工学特論 ● 標識創薬化学特論 ● 病態創薬科学特論 ● 機能生化学特論 ● 創薬計算科学特論 ● 創薬構造生物学特論 ● 細胞生物化学特論 ● ゲノム安全科学特論 ● 生体高分子化学特論 ● 植物生理化学特論 ● 創薬材料工学特論 ● 創薬免疫工学特論 ● 創薬科学特別講義 など			
		● 異分野体験型創薬ラボ演習プログラム ● ● 創薬科学グローバルプレゼンテーション ● 国際性涵養(かんよう)プログラム ● 創薬科学キャリアデザイン ● 研究企画ゼミナール			
博士後期課程	● 研究公正 ● イノベーション 創出型研究者養成 など	● 創薬科学特別研究 ● 創薬科学特別演習			
		● ジョブ型創薬研究インターンシップ ● ● グローバル合宿・在外研究体験 ● 創薬科学キャリアデザイン ● 研究企画ゼミナール			

想定される 修了後の進路

【博士前期課程】

- 博士後期課程(博士課程)への進学
- 製薬企業、バイオテクノロジー企業等の研究職
- 保健行政や関連する基礎科学を所管する中央省庁や外郭団体、国立研究開発法人等の政府系研究機関・公的研究機関の職員

【博士後期課程】

- 大学や研究機関の教員・研究者
- 製薬企業、バイオテクノロジー企業等の研究開発職
- 保健行政や関連する基礎科学を所管する中央省庁や外郭団体、国立研究開発法人等の政府系研究機関・公的研究機関の研究職
- 製薬ベンチャー企業の研究職・起業家